



第6次小国町総合計画



基本構想

2021 $\Longrightarrow$ 2030

第6次 小国町総合計画 基本構想

(2021年～2030年)

次世代の小国町のまちづくりが始まります



～「小さな町」で「大きな未来」を描く～



O G U N I

‘小さい国’と書いて、おぐに。

細菌学・予防医学の礎を築いた日本を代表する医学者、北里柴三郎博士を生んだ
この地の人々は、学びと交流が人を成長させるという先人の教えを守り続ける。
知恵と工夫で先進的な挑戦を続ける地熱と杉の町、熊本県小国町。

総合計画策定にあたり

総合計画とは、長期的な視野に立ってまちづくりの方向性を示すもので、町政運営の総合的な指針となる計画であり、とても大切な役割を担っています。総合計画を詳細に見てみると、まちづくりを進める上で取り組まなければならない課題や目標を共有することの必要性に気付いていただけたと思います。

この計画は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」で構成し、2030（令和12）年度を目標年とします。

(1) 基本構想

基本構想は、本町の現状とまちづくりの課題を踏まえ、目指すべき町の将来像とこれを実現するための施策の基本的な方向を示すものです。基本構想の期間は、2021（令和3）年度を初年度とし、2030（令和12）年度までの10年間とします。

(2) 基本計画

基本計画は、基本構想をもとにその目標を達成するため、施策の具体的な内容を部門別に体系化したもので、実施計画の基礎となります。基本計画の期間は、前期5年、後期5年の10年間としますが、急激な社会情勢・経済情勢の変化により計画を見直すこともあります。

(3) 実施計画（中期財政計画）

実施計画は、基本計画で体系化した各施策の実施年度や事業量、実施方法を具体化したものです。実施計画の期間は3年とし、毎年ローリング方式により計画を策定していきます。

また、効果的かつ効率的な行財政運営を継続的に改善するため、計画に掲げられる施策や事業を対象とし、その必要性や有効性を客観的に評価していきます。



OGUNI 2021 $\longrightarrow$ 2030

 ALL FOR THE NEXT

～すべては次世代のために～

町の未来を担う小国の小中学生



ここに写っているのは小国の未来を担う子どもたち、小国町の小学1年生から中学3年生の児童生徒です。

2020（令和2）年、コロナ禍で学校が休校になったり、学内活動が制限されました。友だちと手をつないだり、大きな声で笑ったり、話をするというごくごく普通のことでもできなくなりました。そのような中で、ソーシャルディスタンスを保ちながらみんなで撮ることができた『奇跡の一枚』です。

黄色い帽子を被っている先頭横2列が小学1年生、続いて小学2年生、3年生と縦に学年が大きくなります。

撮影：2020（令和2）年10月14日

小国町総合計画

町長のことば

～ ALL FOR THE NEXT ～

総合計画に込めた思い

小国町長

渡邊 誠次



小国町総合計画策定にあたり

小国町は、昔も今も変わりなく豊かな自然に恵まれた町です。それは、悠久の時の中で幾世代もの先人たちが守ってきたかけがえのないものです。我々はこの豊かな自然から様々な恵みを得ながらこの地で生活してきました。

しかし、その一方で自然は時として牙を剥き、小国町は度々大きな自然災害を経験してきました。2016（平成28）年4月に発生した熊本地震では、本町においても最大震度5強を観測し、指定避難所での避難者（延人数）は4千人を超えました。被害は重傷者2人、軽傷者4人を出し、建物被害や公共土木施設被害も多く発生し、風評による観光面への影響も受けました。2020（令和2）年7月、9月には立て続けに記録的な豪雨が発生しました。この豪雨に関して、本町では幸いなことに町民の皆様の積極的なお声掛けや迅速な避難などにより人的被害はありませんでしたが、土砂災害による道路の通行止めや、住居や旅館の浸水など、物的被害は甚大なものとなりました。



被災直後の様子
(2020年7月)



復興後の様子
(2020年11月)

昨今、我が国を含む世界各地で、これまで経験したことのない酷暑、集中豪雨や干ばつ、巨大化する台風など、気候変動に起因すると考えられる異常気象が多発し、多くの被害が発生しています。小国町でも、気温の上昇、降水量（ゲリラ的な豪雨）の増加、害虫発生、感染症リスクの増大など、農林業をはじめとする産業や日々の生活への弊害が心配されています。

Profile

渡邊 誠次（わたなべ せいじ）

1970年12月に小国町に生まれる。
熊本県立済々黌高等学校卒業。
小国町議会議員、議長を務めた後、
2019年4月に小国町長に就任。

このように我々の住む世界は今大きく変化しており、いつどのような形で危機的状況が訪れてもおかしくない、先の見通せないような状況下に置かれています。これまでの延長線上でものごとを考えていては対応が追いつきません。だからといって手をこまねいているだけではいけません。我々に降りかかるリスクを最小限に抑えるため、様々な危機に対して事前に十分な対策の検討と準備を行っていかねばなりません。

様々な危機に対して事前に十分な対策を打ち、リスクや被害を最小限に抑えるこの予防の精神は、小国町出身である故北里柴三郎博士が実践していた予防医学に端を発しています。東京大学医学部在学中に博士が記した『医道論』の中で、「人民に養生保健の方法を教え体の大切さを知らせ、病を未然に防ぐこと」と「予防医学」の重要性を説いています。病気にかかってから治療を行うのではご本人や家族に負担がかかります。本人や周囲への負担を最小限に防ぐためにも病気を未然に防ぐことがとても重要です。

これはまちづくりにおいても同様です。町民の命と豊かな生活を守るために日頃から地震や水害、感染症蔓延などの危機に備えて事前に対策を練る予防的措置が重要です。これを実践することは北里柴三郎博士のDNAを引き継ぐ、今を生きる小国町民の使命です。

小国町では、昭和の終わりから平成の時代にわたって、宮崎暢俊元町長による「悠木の里づくり」、北里耕亮前町長による北里柴三郎博士の「学習と交流」の理念の継承によるまちづくりが行われてきました。そのまちづくりの考え方を継承しつつ、先人たちから引き継いだこの小国町の豊かな自然、素晴らしい伝統や文化、暮らしを守り、次世代を担う子どもたちやまだ見ぬ子孫たちへ引き継いでいくためSDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）を原動力とした次世代に向けた新しいまちづくりを始めています。SDGsは人間と地球の末永い繁栄を実現するために提示されたものですが、これをまちづくりへ活用することによって地域の魅力や課題の発見、町内外の様々な関係者との連携の強化、課題解決の促進などのメリットがあります。

また、SDGsの理念であるバックキャスティング思考※1、パートナーシップの強化は、北里柴三郎博士が提唱した「予防」や一般財団法人学びやの里が理念とする「学習と交流」とも親和性が非常に高いと考えられます。このような点を踏まえて、本町はSDGsを原動力としたまちづくりに取り組み、その功績から2018（平成30）年度に国よりSDGs未来都市に選定されるに至っています。SDGs未来都市として、本町の地域資源である地熱と森林を活かしながら経済、社会、環境の三側面の統合的取組の中で持続可能なまちづくりを実践中です。

※1 未来を予測する際、目標となるような状態を想定し、そこを起点に現在を振り返って今何をすべきかを考える方法。

なお、本総合計画とSDGsの目標年はいずれも2030年ですが、本町ではさらにその先の時代を見据えた取組も展開しています。我々の地球環境に大きく立ちふさがる気候変動という問題に小国町が対処していくため、2020（令和2年）年3月には「小国町気候非常事態宣言」を行いました。また、地域ごとに異なる資源が循環する社会を形成しつつ、近隣地域と共生・補完し、より広域的なネットワークや経済的なつながりを構築していく「地域循環共生圏」の実現に向けて取り組んでいます。

私は、町長としてのまちづくりのモットーに「ALL FOR THE NEXT」という言葉を掲げています。悠久の時の流れの中で先人から引き継いできたものを守りながら、時代に合った適切な方法で次世代へつなげていきたいと思っています。これはSDGsや地域循環共生圏の理念とも軌を一にするものと認識しています。

以上のことを踏まえ、今般策定した2021年～2030年の総合計画では、「ALL FOR THE NEXT～すべては次世代のために～」を基本理念とし、「①先人たちの経験・知恵・伝統を引き継ぐために」、「②今を生きるすべての町民のために」、「③次世代を担う子どもたちのために」、「④世代や地域、関係者の垣根を超えた交流のために」の4本の軸を掲げました。

本総合計画の策定にあたっては、ご多忙にも関わらず多くの町内外の皆様にアンケートやヒアリングを通じて貴重なご意見や提言をいただきました。改めて心より感謝申し上げます。皆様のご意見を踏まえて策定した本計画を実現するためにも、地域資源を活かした持続可能なまちづくりを展開して参りますので、引き続き皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

すてきな小国町を
皆さんと一緒に
つくっていきます！

小国町長

渡 邊 誠 次





SDGs とは



エスディージーズ
「SDGs」とは、「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」のことです。2015（平成27）年9月、ニューヨーク国連本部において、193の加盟国の全会一致で採択された国際目標であり、気候変動や格差などの幅広い課題の解決を目指しています。SDGsは、社会が抱える問題を解決し、世界全体で2030年を目指して明るい未来を作るための17のゴールと169のターゲットで構成されています。

SDGs 未来都市 小国町



一億総活躍担当
まち・ひと・しごと創生担当
内閣府特命担当大臣（少子化対策 地方創生）

坂本 哲志 大臣

小国町は、2018（平成30）年度にSDGs未来都市に選定されました。
今後、本町ではSDGsの理念に基づき、地熱と森林というユニークかつ豊富な地域資源をより積極的に活用することで、これまでの経験や取組の成果を社会面や経済面にも波及させることにより、町内外の産官学民の連携のもと、持続可能なまちづくりをさらに推進します。



地域循環共生圏 とは

「地域循環共生圏」とは、小国町のような農山村も漁村も都市も活かす、我が国の地域の活力を最大限に発揮する構想です。それぞれの地域が美しい自然風景などの資源を最大限活用しながら自立し分散した社会を形成しながら、地域の特性に応じて資源を補い合い、支え合うことによって、地域の活力が最大限に発揮されることを目指そう！という考えです。
地域循環共生圏をつくっていくことは、SDGsやSociety5.0の実現にもつながります。



環境省九州地方環境事務所
泉 勇気 課長



小国町で行われた
地域循環共生圏に関する意見交換会の風景



地域循環共生圏づくりのイメージ図

近代日本医学の父

北里柴三郎博士



熱と誠があれば、何事も達成する

北里柴三郎博士と小国町



北里柴三郎記念館

木魂館

日本が誇る世界的な細菌学者北里柴三郎博士は、1853年1月29日、北里村（現小国町）の庄屋北里惟信の長男として生まれました。1916年博士が64歳の時に、私財を投じ、生家の近くに北里文庫を建設し、生まれ故郷である北里村に寄贈しました。

北里家所有の田、山林などの収入で図書の購入、運営が行われ、蔵書2,000余冊にまで及んでいましたが、戦後収入のみちが絶え、一時休館状態となりました。1964年7月、土地、施設の一部が小国町に寄贈されたあと、1987年、博士の学問を受け継ぐ北里研究所、北里学園が中心になって博士の生家の復元修復を行うとともに、北里文庫の建物を利用して博士に関する遺品などを陳列し、小国町に寄贈されました。現在は北里柴三郎記念館となっています。また、博士の提唱した「学習と交流」を次世代につなげることを目的に1988年に木魂館が建設されました。小国町の地域づくりの中心施設のひとつとして、全国から地域づくりのリーダーたちが集います。また、各種シンポジウムやコンサートなど多彩なイベントに活用されています。

新紙幣の肖像画への採用



2024年度の上期を目処に発行される予定となっている新紙幣の千円札に北里柴三郎博士の肖像画が採用されることとなっています。今後も本町では、北里柴三郎博士の功績や理念を引き継ぎ発信していくための様々な事業に取り組む予定です。



北里 柴三郎

KITASATO SHIBASABURO

破傷風菌の純粋培養法の確立（1889年）や血清療法の発見（1890年）により世界の医学界にその名を轟かせた医学研究者です。また、国内に医学研究機関を数多く設立するなど、1931年に死去するまで終生わが国の公衆衛生、医学教育、医療行政の発展に貢献しました。

学習と交流

様々な人とのつながりを大切にし、互いに学び合うことで様々な困難や課題を乗り越えていくことができます。現在小国町では、北里柴三郎博士が提唱し、実践したこの「学習と交流」の精神に則ったまちづくりを実践しています。町民同士や町外の人とのつながりを大切にし、知見の継承や情報交換などを通して、自然災害をはじめとする危機を幾度となく乗り越えてきました。この「学習と交流」という考えは、SDGsの理念と共通するものであり、今後も持続可能なまちづくりを実践していくうえで欠かすことのできないものです。

北里 柴三郎博士 の教え

北里柴三郎博士が
残した言葉・信念は
現在の社会、まちづくり
にも通づるものが
たくさんあります。



研究だけをやっていたのではダメだ。
それをどうやって世の中に役立てる
かを考えよ。

周囲が見えなくなるくらい何かに夢中になって取り組むものがある人は幸せな人でしょう。無心になって何かに没頭することで得られるメリットもあります。しかし、その一方で今自分が何のためにそれに取り組んでいるのか、改めて取り組む目的や到達すべき目標を明確化することも重要です。目的や目標、そこに至る手段やプロセスを具体化したうえで取り組むことによって、効率性や実効性も増し、目標が達成される可能性も向上するとされています。まちづくりの方向性を示す総合計画を策定する理由もここにあります。

医者の使命は
病気を予防することにある。

病人を苦しみから解放する医療の発展は素晴らしいものですが、人々が病気になる前に対策を講じて苦しむ人を少なくする「予防」ができればなお素晴らしいことです。北里柴三郎博士はこの「予防」の重要性を説いています。そしてこの「予防」の重要性は医療の世界に限ったものではありません。我々は自然災害の発生や感染症の拡大など、予期できない危機がいつ何時訪れてもおかしくない世界の中で生活しています。危機に備え様々なパターンを想定して対策を講じることで、被害を最小化し、豊かな生活を実現することができます。

《 第 6 次小国町総合計画 基本構想 》

はじめに

・ 町長のことば 5

・ 北里柴三郎博士の教え 11

基本構想 本編

・ 小国未来ビジョン 15

・ 小国町総合計画と関連計画 19

・ 小国未来ビジョンを構成する 4 本の軸

 第 1 の軸、先人たちの経験・知恵・伝統を引き継ぐために 20

 第 2 の軸、今を生きるすべての町民のために 32

 第 3 の軸、次世代を担う子どもたちのために 44

 第 4 の軸、世代や地域、関係者の垣根を超えた交流のために 54

・ 小国町総合計画 施策の大綱 67

基本構想 付録

・ 小国町のこれまでといま 73

・ 動き出した小国町

 1. 総合計画の策定体制と構成 82

 2. 総合計画策定 STORY 83

・ 小国町総合計画策定審議会 委員名簿 85

コラム一覧

・ SDGs とは 9

・ 地域循環共生圏とは 10

・ 小国町民インタビュー 27・39・40・49・50・59

・ 保護者アンケート 28・41・60

・ 町民が望む小国の未来ビジョン 29・30・42・43・52・53・62

・ 新時代の到来 31

・ 小中学生アンケート 51

・ 町外の人々が期待する小国の未来ビジョン 61

・ もっと！小国のまちの声 63～66



第6次小国町 総合計画 4本の軸

小国町の土壌と風土

北里柴三郎 博士



私が提唱した「予防」と「学習と交流」の理念は現代においても重要である

「予防」

「学習と交流」

北里柴三郎 博士の教え

1. 先人たちの経験・知恵・ 伝統を引き継ぐために

森林資源



地熱資源



農産物



芸術・文化



- ・先人たちが残してきた町の財産をその時代に適した方法を取りながら、将来へ引き継いでいく。

2. 今を生きる すべての町民のために



- ・今後起こり得る危険に対し、事前に対策を打つ事でリスクを最小限にする「予防」の理念を徹底する。
- ・町民が安全で健康的に暮らせる環境づくりを進める。

3. 次世代を担う 子どもたちのために



- ・将来、町の担い手となる子どもたち、これから生まれてくる子孫たちを育てていくための教育を徹底する。
- ・全ての世代がお互いに学び合える環境づくりを進める。

4. 世代や地域、関係者の 垣根を超えた交流のために



- ・すべての世代や様々な関係者が交流、連携を図りながら他分野の取組を進めていく。



ALL FOR THE NEXT

～すべては次世代のために～

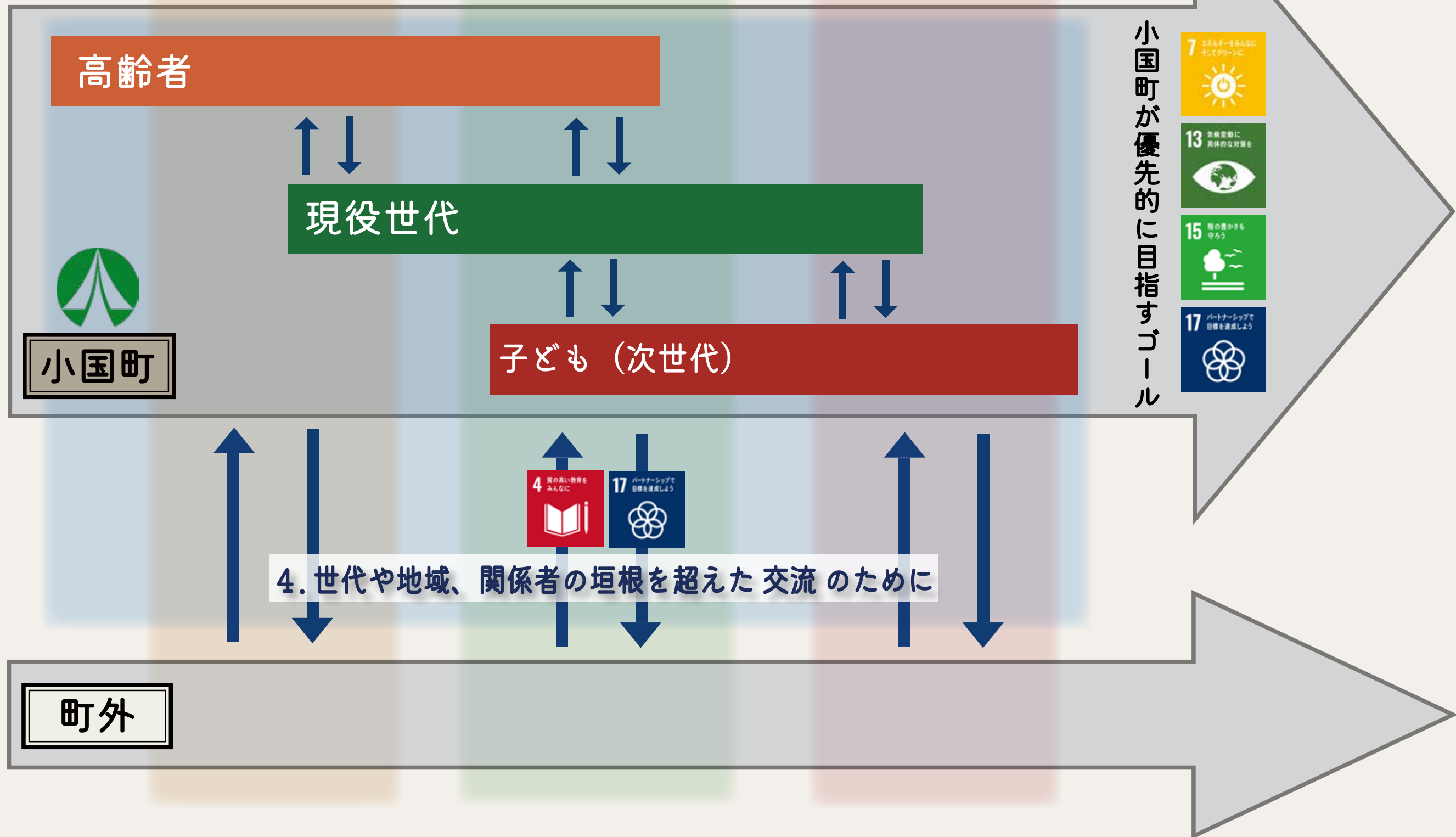
本総合計画では、北里柴三郎博士が提唱した「予防」「学習と交流」の理念を基に、持続可能なまちづくりに必要な「4本の軸」を掲げ、取組を進めていきます。

第 6 次小国町総合 計画 4 本の軸に沿ったまちづくり

1. 先人たちの経験・知恵・
伝統を引き継ぐために

2. 今を生きる
すべての町民のために

3. 次世代を担う
子どもたちのために



小国町は、先人たちから引き継いだ資源や 芸術・文化等を現役世代・将来世代へ
バトンプスしながら持続可能なまちの 実現に向けて取り組んで参ります。



小国町総合計画



さらに具体的な分野ごとの内容に関しましては
以下の各種関連計画をご参照ください。

■ 地方創生・まちづくり



- ・小国町山村振興計画（2016 年度～期限なし）
- ・第 2 期小国町まち・ひと・しごと創生総合戦略（2020 ～ 2024 年度）
- ・第 2 期小国町 SDGs 未来都市計画（2021 ～ 2023 年度）

■ 財政



- ・小国町総合整備計画（2022 ～ 2026 年度）
- ・小国町過疎地域自立促進計画（2021 ～ 2025 年度）
- ・公共施設等総合管理計画（2016 ～ 2055 年度）

■ 防災



- ・小国町国土強靱化地域計画（2020 ～ 2024 年度）
- ・「平成 2 8 年熊本地震」復興まちづくり計画（2018 ～ 2027 年度）

■ 福祉



- ・第 4 次地域福祉計画・地域福祉行動計画（2019 ～ 2023 年度）
- ・高齢者福祉計画及び介護保険事業計画（2021 ～ 2023 年度）
- ・第 4 期障がい者基本計画（2018 ～ 2023 年度）
- ・第 6 期障がい者福祉計画（2021 ～ 2023 年度）
- ・第 2 期障がい児福祉計画（2021 ～ 2023 年度）
- ・自殺対策計画（2018 ～ 2023 年度）
- ・保健事業実施計画（データヘルス計画）（2018 ～ 2023 年度）
- ・特定健康診査実施計画（2020 ～ 2023 年度）
- ・健康増進計画（2020 ～ 2023 年度）
- ・食育推進計画（2020 ～ 2023 年度）

■ 子育て



- ・第 2 期子ども子育て支援計画（2020 ～ 2024 年度）

■ 人権・男女共同参画



- ・小国町男女共同参画社会づくり計画（2018 ～ 2022 年度）



第 1 の軸

1st Axis

先人たちの経験・知恵・
伝統を引き継ぐために





第1の軸

1st Axis

先人たちの経験・知恵・伝統を引き継ぐために

小国町の先人たちはこれまでに、自然環境・伝統や文化・各産業に関する経験や知識など、地域に根付いた財産を次の世代、そのまた次の世代へと継承してきました。次世代、そして将来の小国町のために、先人たちが引き継いできた町の財産を決して途絶えさせることがないように持続的な継承が可能なまちを目指していきます。

1 先人たちが残した自然環境を未来へ引き継げるまち

2 先人たちが残した伝統・文化を未来へ引き継げるまち

3 先人たちが残した産業を未来へ引き継げるまち

1. 先人たちの経験・知恵・伝統を引き継ぐために

1 先人たちが残した自然環境を未来へ引き継げるまち

小国町は、昔から豊富な森林資源や地熱資源など様々な自然資源に恵まれたまちであり、先人たちも現町民も変わることなくこの豊かな資源の恩恵を受け続けています。

この自然資源を今の時代で途絶えさせないために、現町民一人ひとりが意識をもって自然資源を持続的に利用・保全し、次世代へ引き継ぐことができるまちを目指していきます。

詳細については、本構想の P23～24、前期基本計画の P2～7 に掲載

2 先人たちが残した伝統・文化を未来へ引き継げるまち

小国町にゆかりのある偉人が残した貴重な文化財や地域に昔から根付くお祭りなどの伝統は、先人たちが大事に継承してくれたおかげで、現在もそれらを町内のいたるところで見ることができ、町民はその恩恵を日々受けることができます。そのような昔から根付く伝統や文化を現代で消滅させることなく、小国町民の誇りある財産として次世代に引き継ぐことができるまちを目指していきます。

詳細については、本構想の P25、前期基本計画の P8～11 に掲載

3 先人たちが残した産業を未来へ引き継げるまち

昔から現在にかけて長い間盛んに行われてきた「伝統ある産業」、時代の変化に伴い「新しく生まれた産業」の双方の振興・後継者育成・技術継承を町民がスムーズに行うことができるまちを目指していきます。

詳細については、本構想の P26、前期基本計画の P12～18 に掲載

第1の軸 先人たちの経験・知恵・伝統を引き継ぐために

1st Axis

1. 先人たちの経験・知恵・伝統を引き継ぐために

1 先人たちが残した自然環境を未来へ引き継げるまち

小国町といえば自然。
地元の人はもちろん、町外の人
にも自慢できるような小国町の
自然をずっと守っていききたい。



町民の声①
(40代男性)

道路幅が狭い道が多く、散歩をして
いると車にぶつかりそうになって
少し危険だなと感じることがよくある。



町民の声②
(20代女性)

エネルギー関連の開発によって生
まれる町への利益も魅力的だが、
乱開発にならないように、時間を
かけて慎重に行うべきだと思う。



町民の声③
(40代女性)

■道路・河川に関する基本方針

国・県道については、計画的な道路整備、維持修繕の要請を続けていくとともに、町道については、生活に密着した安全で人に優しい町道整備を推進し、活用している道路について適切な維持・管理を実施していくほか、道路構造物の定期点検を行うことにより、長寿命化を図り、安全で安心して通行できる環境づくりや交通安全意識の啓発を進めます。

併せて、河川改修や河川浄化などを通して、災害に強く、町民に愛される河川環境を創出します。

■環境保全に関する基本方針

「気候非常事態宣言」にもあるように、環境問題に対し覚悟をもって取り組み、ごみの減量化・再資源化や、地域や学校における環境教育や啓発活動、そして省エネルギー社会への取組や啓発などを推進していきます。

また、地熱や森林資源（バイオマス）といった新エネルギーの計画的活用を進めていくことにより、自然環境、生活環境の保全と低・脱炭素化社会の実現、地域の活性化を図っていきます。

■エネルギーに関する基本方針

低炭素化、脱炭素化に向けては、化石燃料使用量の削減、脱却が必要であり、豊富な再生可能エネルギーを持つ小国町においては、自然環境と調和した資源の開発推進が求められています。

まず地熱については、他の地域には無い貴重な資源であり、その活用は町の活性化と脱炭素化に向け欠かせない要素ですが、地中から生み出される地熱の活用は、計画的かつ永続的であるべきです。

このため、町は平成28年1月に「小国町地熱資源の適正活用に関する条例」を制定しました。更に地熱開発事業者とともに「小国町地熱資源活用協議会」を設立し、秩序ある開発により、地域振興と環境保全の両立を目指しています。

森林資源については、建材利用の促進とともに、バイオマス利用も進め、地域振興と併せて森林そのものの適切な管理による災害に強い国土づくりも目標の一つとして取り組んでいます。



第1の軸 先人たちの経験・知恵・伝統を引き継ぐために

1st Axis

1. 先人たちの経験・知恵・伝統を引き継ぐために

2 先人たちが残した伝統・文化を未来へ引き継げるまち

柴三郎博士関連の物を中心に、小国町にある文化財の保護をしっかりと行い、同時に町外にPRもできればと思う。



町民の声①
(40代男性)

世界で活躍できるようなホッケー選手が育つ環境を作り、小国町のホッケー文化を発信・継承してほしい。



町民の声②
(20代女性)

■芸術・文化に関する基本方針

本町の豊かな自然と長い年月の中で培われてきた歴史や文化の継承とともに、将来の文化発展に寄与する文化活動や文化財保護・保存・活用を推進します。

■スポーツに関する基本方針

地域に根ざした総合型地域スポーツクラブの充実と人材の育成、施設の有効活用、各種スポーツ団体との連携などによる生涯スポーツを支える環境づくりを進めます。総合型地域スポーツクラブで、誰でも参加できる軽スポーツの振興と普及を図ります。より多くの住民の参加や異世代の交流、健康づくりを促進するためのだれもが親しみやすいスポーツ活動を推進します。

また、小学生・中学生にとっても参加・活動しやすいスポーツ環境の整備・充実を推進します。

3 先人たちが残した産業を未来へ引き継げるまち

若い人たちに農業の楽しさ、すばらしさを伝えていくことで、後継者を絶やすことなく、10年後、20年後も小国町の農業が無くならないでほしい。



町民の声①
(40代男性)

町内又は近隣に働く場所が今よりもっと多様になってくれるとありがたい。今も将来も町内に働く場所があるということが特に大事だと思う。



町民の声②
(20代女性)

■農林業に関する基本方針

生産基盤の整備の推進、新規就農者を含む農業後継者や法人化による担い手の確保、地域の特性を活かしたブランドづくりの促進及び農育・食育・木育の推進など生産から流通まで幅広い農林業の振興を図ります。

■商工業・サービス業に関する基本方針

商工業・サービス業の推進については、小売店や商店街の活性化を支援し、多様なサービスを通して、賑わいのある商工業の充実を図ります。そのためにもコロナ禍における経済対策をしっかりと現場に落とし込み、産業間交流・連携などを通じた既存企業への支援を今後も進めるとともに、コロナ禍の環境整備や情報の提供による積極的な企業誘致を進め、新たな雇用創出を図ります。



町で活躍する町民のホンネを聞いてみました！

コラム

観光・エネルギー

小国町民インタビュー



わいた温泉組合 組会長 石松 裕治 さん

◆ Profile

小国町生まれ小国町育ち。学生時代は農業を専門的に学ぶ。
現在は自身の温泉経営や合同会社わいた会の執行役員を務めるなど
様々な仕事を行う。また5歳と2歳の子を持つ父である。



Q1. 現在の小国町はどのような町？

仕事柄いろいろな地域へ行くことが多いのですが、他地域と比べるとやはり一番は自然が豊か。また、水・地熱・森林資源など多種多様な「素材」がたくさんある町だとも思います。

Q3. 10年後のために町で変えるべきものは？

人口は、どうしても減っていくでしょう。だから、それに対応する方法を町民で模索しなければいけないと思います。
「拠点」となるような施設・場所を町内に新しく作ることが出来れば、人も集まり人口も増えていくのかな。私が所属する合同会社わいた会では発電で得た収益で町の整備を進めていて、町内にたくさんのお客さんが一同に集まること出来るような、新しいビジネスチャンスの場所を作りたいと、現在企画を進めています。

Q2. 将来世代のために10年後も町に残していきたいものは？

将来、子どもたちが町を支える現役の世代になった時、何が必要かを決めるのは彼らだと思っています。ですが、可能な限りたくさんの選択肢の中からその必要な何かを選んでもらいたいの、可能な限り多くのものを残し伝えたいです。農業、林業、観光業など生活の糧となるようなものがたくさんあれば小国に住み続けたいと思うだろうし、一度町外に出たとしても小国に戻ろうかなという気持ちになるのかなと。

Q4. 小国町の好きなところは？

外から見たとき、誇ることができるポイントがたくさんあると思いますが、小国町に長い間住んでいる人にとっては当たり前になりすぎて気づきにくいと思います。小国町は、いろいろなことに使える「素材」がたくさんある町。この「素材」を今後さらに活かしていくためにも、やはり将来世代のためにもなるべく多くの選択肢を良い形で継承していきたいと考えています。

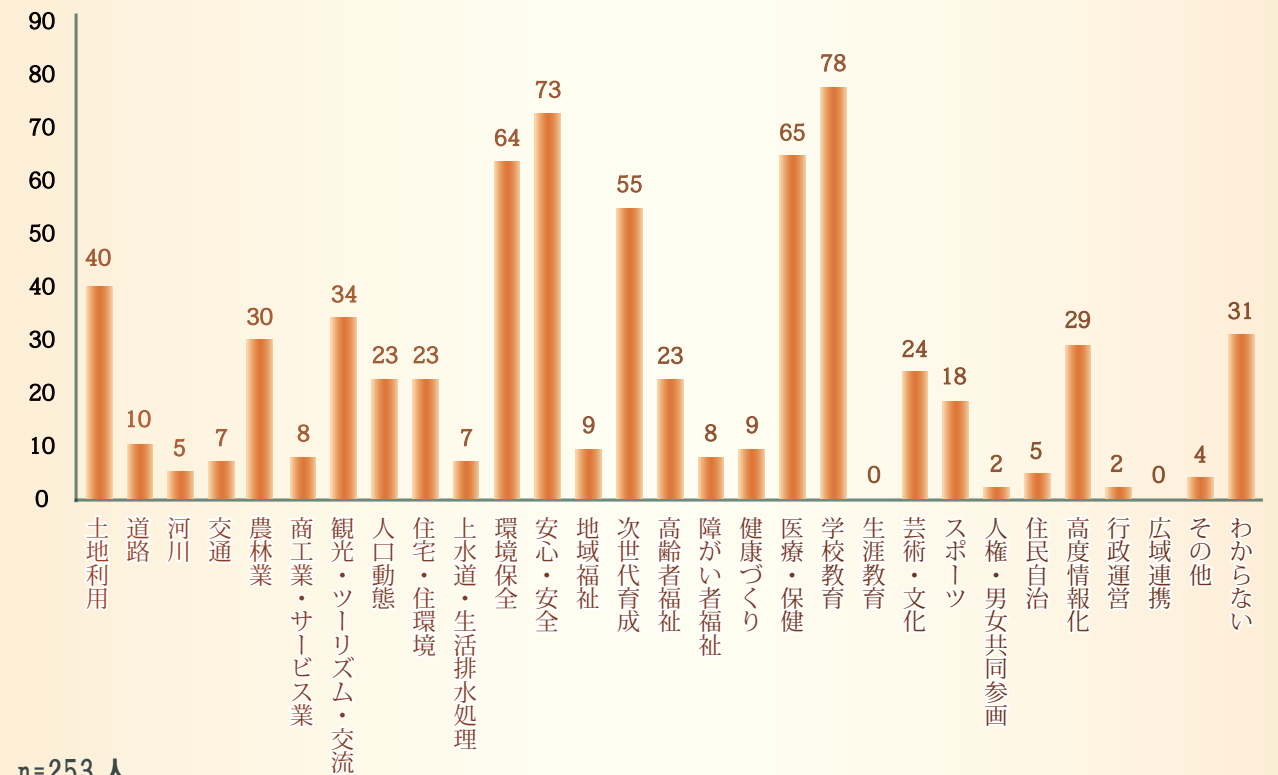
基本構想

コラム

保護者アンケート

「我々の世代が次世代（子どもや孫など）に町を引き継いでいく際に、現状のまま残していくべきものは何だと思いますか」（3つまで回答可）

【人】



n=253人

第6次小国町総合計画策定に向けた保護者向けアンケート調査より
(小国町立保育園・小学校・中学校に通う子どもを持つ保護者が対象)

小国町に住む子どもたちの保護者の皆様を対象に実施したアンケートの中で、次世代のために自分たちの世代が現状あるものの中で重点的に残していくべきもの・またそれに関連する分野は何か？ということに関して意見をいただきました。結果としては、「学校教育」「安心安全」の2つが多くなりました。



町民が望む
小国の未来ビジョン①



ネイチャーエネルギー小国株式会社
代表取締役
芦刈 義孝さん



阿蘇くじゅう観光圏 観光地域づくりマネージャー
穴井 喜織さん



大字西里協議会 会長
穴見 正利さん



阿南牧場
阿南 輝政さん



小国中学校 PTA 会長
井上 健作さん



小国町民生委員児童委員協議会 会長
瓜生田 孝和さん

注) 五十音順に掲載しています。肩書は令和2年度現在です。



町民が望む
小国の未来ビジョン①



小国町隣保館・児童館運営審議会 委員
北里 りえ子さん



老人クラブ連合会 会長
後藤 且也さん



kul (おかし工房 クル)
高野 みづほさん



(株) ゆうステーションカンパニー 代表取締役
高橋 正之助さん



大字黒淵協議会 会長
横田 康成さん

注) 五十音順に掲載しています。肩書は令和2年度現在です。

人新世（アントロポセン）

コラム

新時代の到来

STEM/STEAM 教育

SATOYAMA イニシアチブ

グローバルパートナーシップ

デジタルトランスフォーメーション（DX）

水素社会 / ハイドロソサエティ

ワーケーション

量子コンピューティング

量子テレポーテーション

シンギュラリティ

再生医療

エビゲノム

サステナブルトランジション

パラダイムシフト

ネットポジティブデザイン

遺伝子工学

人工肉 / クリーンミート

リジェネレーション

新国富

GSTC

全固体電池

ウェルビーイング

スマートモビリティ

クロステック

カーボンニュートラル

31 ライフサイクルカーボンマイナス

スノーマライゼーション

リプロダクティブヘルス 強靱性 / レジリエンス

ユニバーサルヘルスカバレッジ（UHC）

ユニバーサルデザイン

環境 DNA

バーチャルウォーター

サーキュラーエコノミー

エクセルギー

ICT

ダイバーシティ
ワークライフバランス

AI

予防医学

未病

オープンイノベーション
データヘルス

今までにはなかった新しい技術や考え方の普及に伴い、私たちが予想することができないような革新的な時代をまさに迎えています。

ワンヘルスアプローチ

AMR 対策

データ駆動

サービスメッシュ

気候変動適応

Eco-DRR

ヴァナキュラー

5G・6G

エッジコンピューティング

核融合

ネクサス

Beyond SDGs

ヒューマンオーガメンテーション

インクルーシブデザイン

気候正義

コネクテッドインダストリーズ

クールシティ

EBPM

オープンデータ

GGRF

ビッグデータ

IoT

GovTech

CCS/CCUS

気候非常事態宣言

ブロックチェーン

コベネフィット / マルチベネフィット

ナッジ

マンマシンシステム

スマートシティ

Society 5.0

ウェアラブルセンサー

デジタルツイン

グリーンインフラ

ゼロエミッション

科学技術イノベーション（STI）

テレワーク / リモートワーク

アンチエイジング / スマートエイジング

第2の軸

2nd Axis

今を生きる すべての町民のために





第2の軸 2nd Axis

今を生きる すべての町民のために

現在小国町に住む「すべて」の町民が毎日の生活を安全に、そして健康に送ることができるようなまちを目指します。この目標を達成するために、本町では「誰一人取り残さない」というSDGsの理念と北里柴三郎博士が提唱した「予防」の理念の2つを反映させた取組を重点的に進めていきます。

4 誰もが安全で快適な生活を送れるまち

5 誰もが健康で不自由なく暮らせるまち

6 安心して便利な行政サービスが受けられるまち

2. 今を生きる すべての町民のために

4 誰もが安全で快適な生活を送れるまち

すべての町民が安全・快適に暮らしていくために、地域における生活環境の整備を進めていきます。今後起こり得る災害や事故・犯罪などを想定して防災体制や防犯体制を強化し地域の安全性を高めるとともに、町民の日々の生活に必要な施設・制度が十分に整備されている快適なまちを目指していきます。

詳細については、本構想のP35～36、前期基本計画のP20～29に掲載

5 誰もが健康で不自由なく暮らせるまち

高齢者や障がいのある人をはじめ、町民一人ひとりが健康で不自由を感じない生活を送ることができるまちを目指していきます。町内の医療や介護・福祉分野の施設・体制を充実させることで町民の身体的・精神的な「健康」を守ります。特に、北里柴三郎博士の提唱した理念に基づき、病気や怪我などを事前に防ぐ「予防」の取組を重点的に進めていきます。

詳細については、本構想のP37～38、前期基本計画のP30～37に掲載

6 安心して便利な行政サービスが受けられるまち

行政事務の効率化や職員の能力向上をはかり、常に町民のニーズに的確に対応した行政サービスを提供できるまちを目指していきます。

また、今後のまちの人口減少や少子高齢化の進行による税収減、社会保障費の増加を見据えた、計画的で持続可能な行財政運営を進めていきます。

詳細については、本構想のP38、前期基本計画のP38～41に掲載

第2の軸 今を生きる 2nd Axis すべての町民のために

2. 今を生きる すべての町民のために

4 誰もが安全で快適な生活を送れるまち

町内での買い物を楽にしたいので、タクシーやバスの運行時間や乗り合い場所の整備など、町内交通のシステムを改善してほしい。



町民の声①
(40代女性)

使われていない老朽化した建物などをそのままにしないで、有効に活用できるような方法があれば小国に住みやすい住宅を増やす事ができるのではないかな。



町民の声②
(30代男性)

町外へ遊びに行くとき今は自家用車がメインなので、町外とつながる便利な交通手段がたくさんがあればいいと思った。



町民の声③
(中学2年生 女性)

ご近所さんとの距離が近い町だからこそ、子どもたちを親だけでなく地域の人々皆で見守ることができる体制づくり・意識付けをしていくべき。



町民の声④
(50代女性)

■土地利用に関する基本方針

小国町の豊かな自然を守り、農山村景観に配慮した秩序ある土地利用を推進するために、「みんなで考えみんなで創る小国町まちづくり条例」「小国町地熱資源の適正活用に関する条例」及び「小国町景観条例」により、十分な協議を行い、土地利用を図っていく必要があります。協議には開発業者と自治体、地域住民を含めて自然環境の保全と安全性の確保に努めます。

■交通に関する基本方針

乗合タクシーをより使いやすいものとし、中心市街地における交通の充実を図り、住民の生活を維持します。また路線バスについては、乗車人数や、住民のニーズを反映し、統合・再編を進めます。

小国町へのアクセスについて、周辺自治体との連携を構築し、広域的な交通網の整備を進めます。

■住宅・住環境に関する基本方針

都市からの住まいの受け皿としての情報や若者の定住を図るための支援事業の情報を発信するとともに、若い世代の定住を図るための民間活用による快適な住宅環境づくりを進めます。

町営住宅については、老朽化対策のための維持・修繕に努め、入居者の安全を確保しながらコストの抑制も図ります。

住民との協働や役割分担による公園の維持管理や運営などに努めます。

■上水道・生活排水処理に関する基本方針

水道事業の拠点施設の点検・修理（改良、漏水対策）や老朽管を計画的に更新し、安定した水の供給に努めて水質安全性を確保するとともに、災害対策の強化など様々な課題に対応しながら「安心・安定・持続・強靱」な水道事業を実現させます。また、「小国町污水处理構想」に基づき、既存事業による農業集落排水事業などは今後の人口減少に伴い、段階的に規模縮小などを検討しながら施設の耐用年数や老朽化を勘案し、適切な更新計画のもとで継続しながら、個人設置による合併処理浄化槽整備の普及促進などを図り、河川の水質保全と汚濁防止を今後も推進します。

■安全・安心（防災）に関する基本方針

迅速に災害に対応できる消防・防災体制づくりを進めるとともに、警察や交通安全協会、学校その他関係機関との連携による地域一体となった交通安全対策と防犯対策を進めます。

また、県の消費生活センターと連携した消費者保護の充実を図ります。



第2の軸 今を生きる 2nd Axis すべての町民のために

5 誰もが健康で不自由なく暮らせるまち

老後が心配。
大きな病院が町内に1つし
がなく、家からも遠いので、
今後通院が不便になりそう。



町民の声①
(50代男性)

町内の公共施設はどんな人
でも利用しやすいような配
慮・仕組みを作っていた
方が良いと思う。



町民の声②
(40代女性)

赤ちゃんも子どもも高齢者
もみんなが不自由なく暮ら
せるまちになってほしい。



町民の声③
(中学2年生 男性)

■地域福祉に関する基本方針

子育て世代や高齢者及び障がい者などで支援を必要とする方を身近な地域で総合的に支えあえる地域福祉を実現します。

■高齢者福祉に関する基本方針

介護予防をはじめ高齢化社会に配慮した在宅福祉サービスの充実と生きがい対策の充実など総合保健福祉対策を推進し、ともに助け合い高齢者がいきいきと暮らす長寿社会の実現を目指します。

2. 今を生きる すべての町民のために

■障がい者福祉に関する基本方針

自立生活を支援する総合的な福祉サービスの充実や社会参加と雇用・就労を促進するとともに、住民が障がい者に対する理解を深め、共に支え合い助け合える住みやすい町を目指します。

■健康づくりに関する基本方針

小国町健康増進計画・食育推進計画に基づき、「子どもから高齢者まですべての世代の人が健康で長く住み続けられるまちづくり」を推進していきます。

■医療・保健に関する基本方針

住民の健康づくりの推進などによる国民健康保険制度や後期高齢者医療制度の健全化とともに、介護保険制度の啓発や、介護者とその家族のニーズに対応する制度や事業の充実に努めます。

6 安心して便利な行政サービスが受けられるまち

■高度情報化に関する基本方針

情報・通信受発信基盤の充実に努めるとともに、個人情報保護法の理念を踏まえた行政内部の情報管理の徹底を図ります。

■行財政運営に関する基本方針

限られた財源の中で施策を重点化し効率的に事業を推進するため、予算重視から決算重視への転換による財政基盤の強化、公共施設の能率的・効果的活用、行政サービスの向上、事務事業の量に応じた職員の適正配置、職員の資質の向上などによる適正な行財政を推進します。

町で活躍する町民のホンネを聞いてみました！

コラム

福祉

小国町民インタビュー



小国町社会福祉協議会 宮本 祐児 さん

◆ Profile

小国町生まれ小国町育ち。小国中、小国高校と進学し、卒業後は社会福祉協議会へ就職。現在は社会福祉協議会の障害福祉課で、障がいを持たれている町民の方の生活をサポートする業務を担当。



Q1. 現在の小国町はどのような町？

今の小国町は、いろいろな問題（職不足や少子高齢化など）はあるけれども、新しく色々なことを試しやすい・チャレンジしやすい町なのかなと思います。飲食店の開業や何か新しいことを始めたりする時には町民同士の距離が近いこともあってか、自然と応援してくれる人が集まりやすく、上手くいっている事例がとても多い印象があります。

Q3. 10年後のために町で変えるべきものは？

近年、地元の人同士の関係が希薄になりつつある気がするので、今後は少し見直すべきなのかなと思います。昔ながらの、お隣さん同士で悩みを気軽に話し合える関係が無くなってきたというか。つながりを深めることが難しいとしても、つながりを絶たないようにしていかなければいけないと思います。病気や水害、地震などの危険な状況に陥った際に誰かが取り残されてしまうということはあるのではないと思っています。

Q2. 将来世代のために10年後も町に残していきたいものは？

お盆やお正月などのしきたり、昔からある小国町のお祭りなど、先人たちが作った昔ながらの文化みたいなものは次世代に引き継ぎたいです。私たちはそういったものを将来世代に引き継ぐパトントッチの世代。ただし、良い悪いを判断して今後引き継ぐべきか、断ち切るべきかふるいをかけることも私たちの世代の役割。この継承に「昔こんなことあったなあ。久しぶりに帰るか」みたいな思いが芽生えて、将来子どもたちが町外に生活に移しても、故郷小国が好きで戻りたくなるようなになればと思います。

Q4. 小国町の好きなところは？

町も人も好きです！ 今の小国町が好きだからこそ、今町にある、学校や社会福祉協議会などの施設、豊かな自然、昔ながらの祭り・行事・文化といった財産は途切れることなく、子どもたちに引き継げるような努力を町民みんなでやっていけるといいなと思います。

町で活躍する町民のホンネを聞いてみました！

コラム

林業・移住

小国町民インタビュー



小国町 森林組合 入交 律歌 さん

◆ Profile

高知県出身。大学院にて林業を学び、その後小国町森林組合の仕事に興味を持ち、それをきっかけに小国町へ移住。現在は森林組合職員として働きながら、母としても忙しい日々を送る。小国町では「林業女子」として多くのメディアにも出演。



Q1. 現在の小国町はどのような町？

移住者の目線で言うと、人との距離感がちょうどいい町と感じます。昔から人の往来があった地域性なのか交流のバランス能力が備わっている感じで、よそ者もさりと受け入れてくれる。だけれど、全部に関わなくていいし、あまり無理強いをされない。困ったら助けるし、近寄りたくないのであれば程よい距離でいいという関係性が根付いていて、私にとってはとても住みやすい町です。

Q3. 10年後のために町で変えるべきものは？

町の公的財産や色々な事業は必要なのか、それを残すのであれば皆様にはこれだけの税金を払ってもらいますみたいな具体的な数字が「見える化」されて、住民みんなが断捨離の選択ができる体制に変わっていけば、10年後、将来世代に負担となるものが明確になり、それを解消するために住民一人ひとりがどういった行動をするべきかわかるようになるのではと考えています。

Q2. 将来世代のために10年後も町に残していきたいものは？

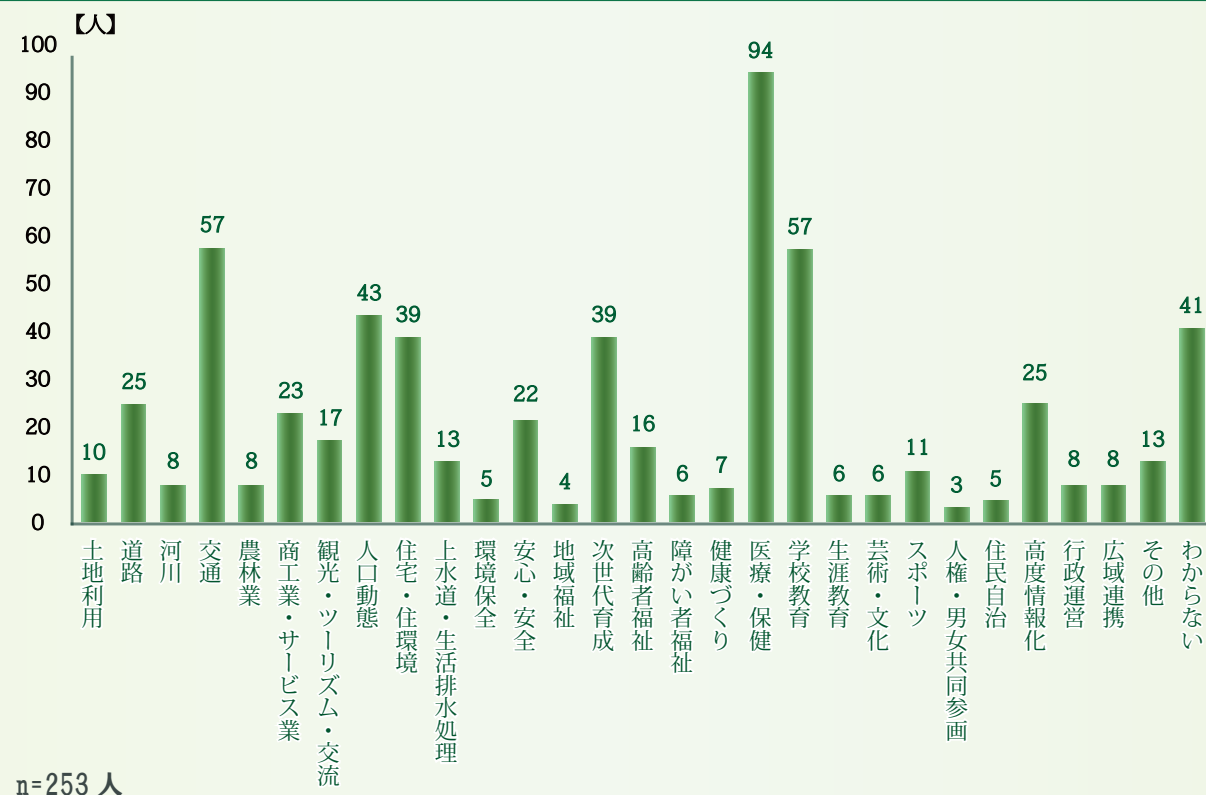
きれいに整備した資産よりも次の世代の人々が「資源を使ってこういうことをしたいよね」と自分たちで考える時期が来た時にきちんと使えるように、今ある資源をできるだけ荒らさずに残してあげたいです。自然のもの、例えば地熱などを残しておくために、持続的な資源の利用というものを自分たちで心掛けようと思います。

Q4. 小国町の好きなところは？

やっぱり小国杉！小国杉と小国杉に関わる人がカッコ良すぎて、とても好きです。小国杉いいでしょと木だけを見せるよりは、それに付随する職人さんとか、きこりさんとか、とにかくカッコいい。この人たちもセットで小国杉ファミリーめっちゃ格好いいでしょ！とすごく言いたい。小国に来た人には、見て触れて、人と話してもらって魅了されて欲しいです。

保護者アンケート

「我々の世代が次世代（子どもや孫など）に町を引き継いでいく際に、
変えていくべき（改善していくべき）ものは何だと思いますか」
(3 つまで回答可)



第6次小国町総合計画策定に向けた保護者向けアンケート調査より
(小国町立保育園・小学校・中学校に通う子どもを持つ保護者が対象)

小国町に住む子どもたちの保護者の皆様を対象に実施したアンケートの中で、次世代のために自分たちの世代が今から重点的に変えていかなければならない分野は何か？という事に関して意見をいただきました。

結果としては、「医療・保健」を次世代のために変えていく・改善していくべきとの回答が一番多くなりました。



町民が望む
小国の未来ビジョン②

基本構想



一般財団法人 学びやの里 事務局長
江藤 理一郎さん



杖立温泉観光旅館協同組合 理事長
河津 順也さん



大字北里協議会 会長
北里 勝義さん



薬味野菜の里 小国
北里 光子さん



小国町婦人会 会長
男女共同参画社会推進懇話会 会長
木田 増美さん



小国公立病院 院長
坂本 英世さん

注) 五十音順に掲載しています。肩書は令和2年度現在です。



町民が望む
小国の未来ビジョン②



小国町社会福祉協議会
笹原 末世さん



一般財団法人 学びやの里
佐藤 和行さん



小国町体育協会 会長
高野 伸征さん



小国町社会福祉協議会 会長
奴留湯 哲宣さん



大字下城協議会 会長
本田 康幸さん



小国町消防団 団長
松野 英一さん

注) 五十音順に掲載しています。肩書は令和2年度現在です。

第3の軸 次世代を担う 3rd Axis 子どもたちのために



7 子どもを産みやすく健やかに育てることができるまち

結婚から妊娠・出産そして子育てに関する支援を充実し、地域で安心して子どもを産み育てられ、子どもたちが心身共に健康でのびのびと成長できる子どもに優しいまちを目指していきます。

また、学校・家庭・地域が互いに連携を図り教育環境及び地域力の向上に努め、まち全体で心豊かな人材を育てていくことができる教育に熱心なまちを目指していきます。

詳細については、本構想の P47、前期基本計画の P44～47 に掲載

8 すべての世代が学び合えるまち

すべての世代の町民同士が日々交流を重ね、気軽にお互いの経験や知識・技術を教え合い学び合うことができるような「学習のまち」を目指していきます。また、地域内で助け合うことで世代や時間・場所に関係なく、自分がやりたいことに新しくチャレンジできるまちを目指していきます。

詳細については、本構想の P48、前期基本計画の P48～49 に掲載



第3の軸

3rd Axis

次世代を担う子どもたちのために

小国町を持続的に発展させるためには、町の将来を支える子どもたちの育成・教育が不可欠です。小国町の魅力である自然・地域のつながりの強さを活用することで、次世代の町の担い手である子どもたちが健やかに成長することができるまちを目指していきます。

また、北里柴三郎博士が提唱した「学習と交流」の理念に基づき、世代の垣根を越えて誰もが学び合い、いつでも新しいことにチャレンジができる環境を作っていきます。

7 子どもを産みやすく健やかに育てることができるまち

8 すべての世代が学び合えるまち



第3の軸 次世代を担う子どもたちのために

3rd Axis

3. 次世代を担う
子どもたちのために

7 子どもを産みやすく健やかに育てることができるまち

日中、私と妻が両方とも
仕事に出ていることもあり、
子どもを安心して預けられる
施設が充実してくれると助かる。



町民の声①
(40代男性)

出産や子育てがしやすい
まちになってほしい。
出来れば町内に産婦人科が
新しくできると良いなと思う。



町民の声②
(20代女性)

■子育て支援に関する基本方針

「子どもの権利条約」に基づいた人権の十分な尊重や地域の人材を活かした子育て家庭への支援を通して、健やかに生まれ育つことができる総合的で利用しやすい子育てサービスを充実します。

明るい若者がたくさんいるまちに
したい。そのためにも町内の学校
はなるべく今のまま将来に残した
い。



町民の声①
(20代女性)

■学校教育に関する基本方針

学校、子ども、家庭、地域、行政の5者がそれぞれの役割を果たし、互いに連携をとりながら地域に信頼される学校づくりと地域に根ざした学校づくりに努めるとともに、児童生徒が生きるための力、豊かな人間性と確かな学力を身に付け、小国を愛し誇りを持てるような学習活動の支援及び安心安全な学校生活を送れるように計画的、かつ効率的な学習環境、施設の整備に努めます。

8 すべての世代が学び合えるまち

全世代の町民が「学習」出来る場と
して、学校以外に人が集まる施設・
機会がもっとあればと思う。



町民の声①
(30代男性)

■生涯教育に関する基本方針

町民一人ひとりの個性が尊重され、生涯にわたって学ぶことができる「生涯学習社会」の実現に向け、学習情報の提供や社会教育施設の充実及び利用促進を図り、町民の学習活動を推進します。

学校、子ども、家庭、地域、行政の5者がそれぞれの役割を果たし、互いに連携を図りながら教育環境及び地域教育力の向上に努め、町民一人ひとりが豊かに過ごせるよう学習活動を支援していきます。

図書室については、子どもの読書活動を進めるとともに、町民のニーズに応えた広い視野での図書室運営を目指していきます。



町で活躍する町民のホンネを聞いてみました！

コラム

教育・エネルギー

小国町民インタビュー



わいた会代表 後藤 幸夫 さん

◆ Profile

小国町生まれ小国町育ち。学生時代は関東で農業について専門的に学ぶ。その後は、小国町に戻り実家の農業・温泉経営を引き継ぐ。現在は家族で温泉を経営・地熱発電所の代表を務めながら、体育指導員・PTA 会長といった教育面の活動も積極的に行っている。



Q1. 現在の小国町はどのような町？

自然豊かで人情味もあって住みやすい町と感じています。常々、人との距離が近い町でもあると感じていますが、それがメリットでもあり、デメリットでもあります。都会の人がいきなり住み始めると少し窮屈に感じることもあるかもしれませんが、小国の人と人の距離の近さはとても気に入っています。

Q3. 10年後のために町で変えるべきものは？

今は5Gなど都会から離れていても仕事ができるような環境が整いつつあるので、小国町でもリモートワークのシステムが普及したり、活用することができたりすると思います。これが実現すれば快適に仕事をしながら、小国町の大自然の中で生活しリフレッシュすることができる「住んでよし、働いてよし」のより素晴らしい町になると思います。

Q2. 将来世代のために10年後も町に残していきたいものは？

地域に根付いていたり、継承されていたりする古き良き伝統文化。盆踊り祭りとか鯉のぼり祭りとか、文化でいうと坂本善三美術館とか。町外に出た子どもたちもそれらをきっかけに小国の魅力を再発見して町に戻ってくるのではないかと思います。教育面では、地元にいる子どもたちに親以外の近所の人たちが叱ったり声をかけたりする光景が良く見られるような、ご近所同士の親密な関係性は将来にも引き継いでいきたいです。

Q4. 小国町の好きなところは？

やはり自然です。山、川、滝、地熱など本当に豊かな資源がたくさんあります。ただ、これらが埋もれている気がします。今後はこのような資源や活用事例をアピールする方法が大事。外から来た人も気軽に小国町のことを知ることが出来たり、気軽に自然を体験出来たり、なおかつ地域の人も一緒に楽しむことができるような、そんな町を目指していきたいです。

町で活躍する町民のホンネを聞いてみました！

農業・子育て

小国町民インタビュー



農家 坂本 美穂 さん

◆ Profile

埼玉県出身。元々阿蘇周辺で農業をすることを望んでおり、ある時、小国町で農業を営む夫と出会ったことをきっかけに本町へ移住。現在は大根農家として夫と子どもと生活を営む。



Q1. 現在の小国町はどのような町？

見た通り自然が多いので、旅行できてくつろげる場所と感じます。自然資源がとにかくたくさんあって、それをまた活かした産業などがあるのも魅力的で独特な特徴のひとつかなと思います。

Q3. 10年後のために町で変えるべきものは？

人との距離感でしょうか。田舎の町ではよく見られることなのですが、この家・地域に住むためにはこうでなくてはならないなどの習慣やしきたりがあります。小国も例外ではない気がします。やはり、家族といえるにしても近所の人と付き合いにしても普通の生活を送る上で、プライベートの時間は確保できるような生活を送れることが必要だと思います。町が移住者を受け入れるのであれば、そういったことも考える必要があるのではないのでしょうか。

Q2. 将来世代のために10年後も町に残していきたいものは？

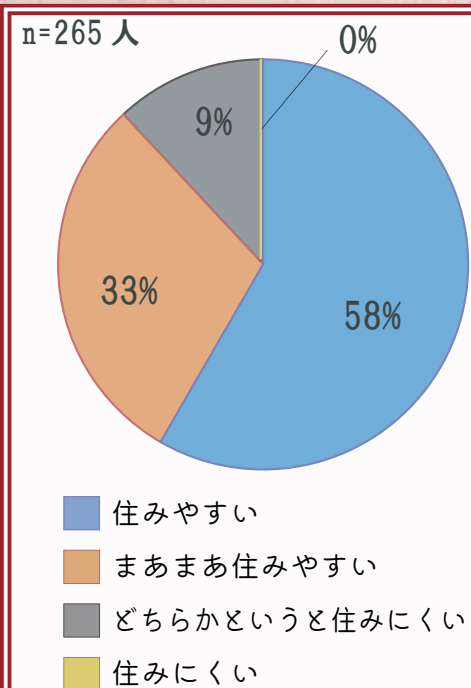
いま（家業として）やっている農業は、この町ではベースとなる産業なので、それは絶やさずに引き継ぎたいという思いはあります。ですが、大根農家などは高齢化が見えてきて、後継者問題を抱えています。各農家の子どもたちに委ねるのではなく、農家以外の人でも受け入れられる体制を作り、残していく必要があると感じます。特に力作業が多い仕事でもあるので、できれば若い世代の人たちにどうやって農業の魅力を伝えられるかという点が重要になってくると思います。

Q4. 小国町の好きなところは？

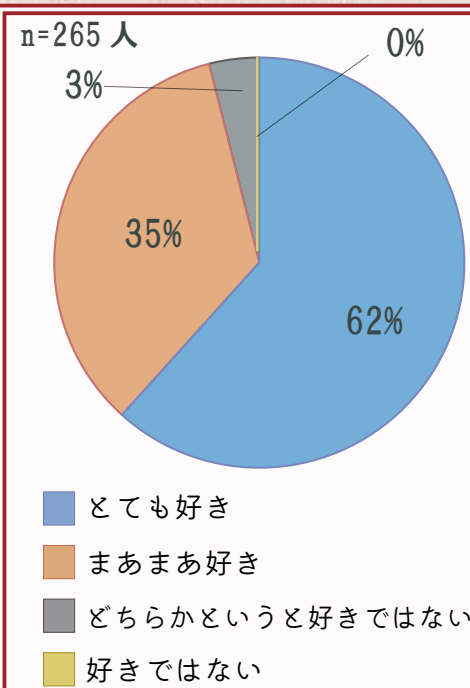
小国は自然も本当に豊かで、落ち着いている感じがあって、とても住みやすい良い町だなと日々感じています。強いて言えばですが、若者からすると何かエンターテインメント的な刺激的な要素が足りないのではないのでしょうか。若者が飛びつくような要素があると、より良い町になるのではないかと思います。

小中学生アンケート

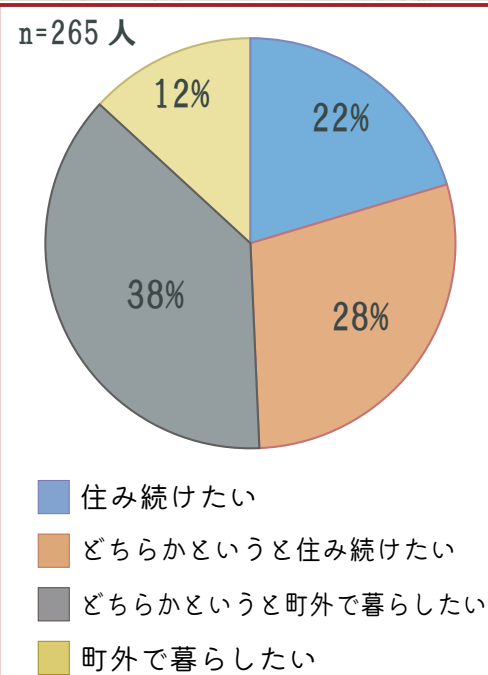
「小国町は住みやすいですか」



「小国町は好きですか」



「大人になっても
小国町に住み続けたいですか」



第6次小国町総合計画策定に向けた子ども向けアンケート調査より
(小国小学校4～6年生の児童、小国中学校1～3年生の生徒が対象)



小国町教育委員会 教育長
麻生 廣文さん



小国町議会 人権啓発・
男女共同参画特別委員会 委員長
穴見 まち子さん



小国小学校 校長
荒木 完二さん



小国町男女共同参画社会推進懇話会 委員
梅田 聖子さん



町民が望む
小国の未来ビジョン③



木こり
河津 有志さん

注) 五十音順に掲載しています。肩書は令和2年度現在です。



町民が望む
小国の未来ビジョン
③



小国町森林組合 常務理事
北里 栄敏さん



手打そば優心
北里 優心さん



小国町議会
総務文教福祉常任委員会 委員長
久野 達也さん



西田 直美さん



一般財団法人 学びやの里
松井 美佑紀さん



小国中学校 校長
家興 修一さん

注) 五十音順に掲載しています。肩書は令和2年度現在です。

第4の軸

4th Axis

世代や地域、関係者の垣根を超えた交流のために





第4の軸

4th Axis 世代や地域、関係者の 垣根を超えた交流のために

北里柴三郎博士が提唱した「学習と交流」の理念に基づき、小国町で活動する人・団体が町内・町外の垣根を越えて交流を育み、お互いに学び合うことができるような環境を作っていきます。

また、世代間の垣根を超えた町民同士の積極的な交流の促進も行います。

以上の交流を促進することで町内の様々な施策の自律的好循環・相乗効果の創出を目指します。

9 誰もが交流・参画し助け合えるまち

10 町外の人と広域的に交流を育み関係を築けるまち

9 誰もが交流・参画し助け合えるまち

北里柴三郎博士の提唱した「学習と交流」の理念に基づき、世代・性別などの垣根を超えたすべての町民が学び合い、交流を育むことで、日常的に町民同士でお互いを高め合ったり助け合ったりできるまちを目指していきます。そのために、住民・民間・行政で互いに連携を取り、町内の多種多様な人・団体が社会参画し、協働し合える環境づくりを進めていきます。

詳細については、本構想の P57、前期基本計画の P52～55 に掲載

10 町外の人と広域的に交流を育み関係を築けるまち

小国町が持つ魅力を町外へ広く発信し、新たな人の流れを作り出し、まちが人を呼ぶ温かな賑わいづくりを進めます。

また、近隣自治体との広域連携による観光振興などに取り組み、多様な交流を阿蘇郡、九州ないしは日本全国にまで広げ、本町だけでなく連携地域全体の活性化を図ります。

詳細については、本構想の P58、前期基本計画の P56～59 に掲載

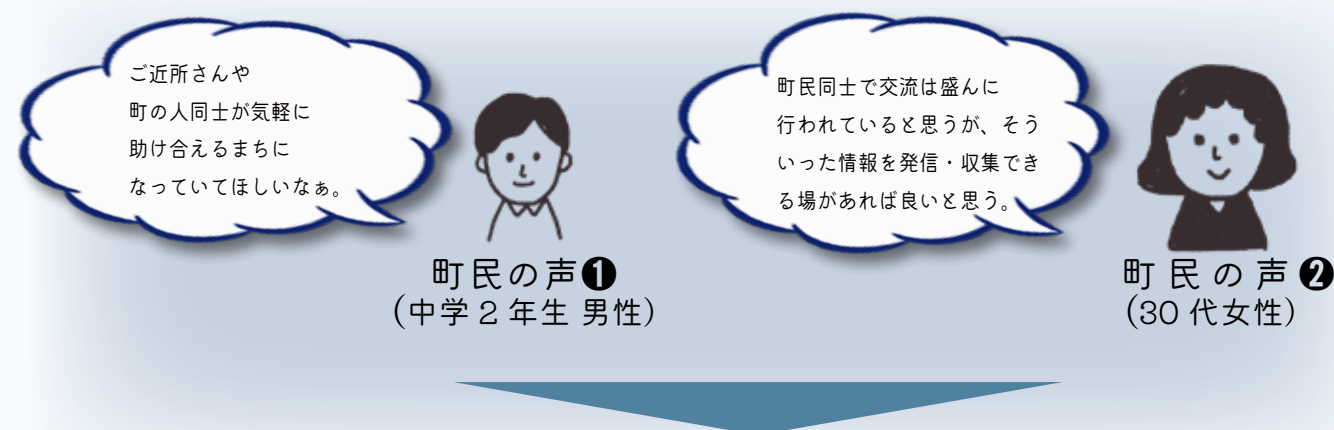


第4の軸 世代や地域、関係者の 垣根を超えた交流のために

4th Axis

4. 世代や地域、関係者の
垣根を超えた交流のために

9 誰もが交流・参画し助け合えるまち



■人権・男女共同参画に関する基本方針

「部落差別解消推進法」、「障害者差別解消法」、「ヘイトスピーチ解消法」などの人権関係法及び「小国町人権教育・啓発基本計画」に基づき、地域、行政、学校などにおける人権教育・啓発を推進します。

誰もがお互いの人権を尊重し合う「心のバリアフリー」を推進し、SDGsの理念のもと「誰も取り残さない」すべての人にとってより良い社会の実現を目指し、人権を尊重した施策を推進します。

また、男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会を確保し、一人ひとりが輝いて暮らすまちとなるよう、男女共同参画を推進します。

■地域内協働に関する基本方針

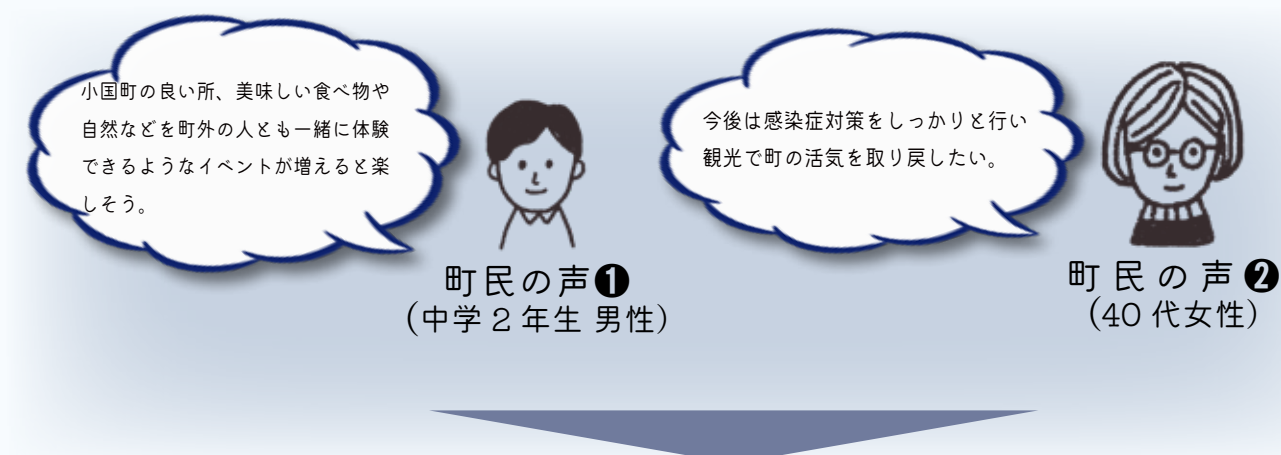
住民・民間・行政が、お互いの立場を認め尊重することを基礎に、自立した立場で協力し合う「協働のまちづくり」を推進します。

そのためには、地域と学校が双方向に連携・協働して行う地域学校協働活動により、未来を担う子どもたちが、地域に愛着を持ち、地域に貢献したいと考える人材の育成も目指します。

■住民自治に関する基本方針

「住民主役」という視点のもと、「人材」などの地域資源を活用して、地域の人たちが自ら住みやすいまちを創っていく活動を支援します。

10 町外の人と広域的に交流を育み関係を築けるまち



■観光・ツーリズム・交流に関する基本方針

地域資源の整備やネットワーク化した広域観光ルートの設定による観光資源の活性化を図るとともに、推進体制の充実、地域特産品などを活用した商品開発や販売ルートの確保、イベントの充実などによる観光の振興を図ります。

また、地域おこし協力隊の雇用による積極的な人材活用を行い、地域力の活性化に努めます。令和2年から本格的に発生した新型コロナウイルスの感染予防対策と経済活動を両立させ、ニューノーマルな観光地として確立していくためにも、観光関連の組織強化を図ります。

■広域連携・地域間協働に関する基本方針

隣接市町との連携による広域組織の充実と業務拡大を進めるとともに、住民レベルでの広域的な活動を支援します。

町で活躍する町民のホンネを聞いてみました！

コラム

起業・イベント

小国町民インタビュー



カフェオーナー 秋吉 志保 さん

◆ Profile

小国町にてカフェを経営。

小国町生まれ小国町育ちであるが、一度町内から出てUターンをして現在は小国町に在住。町民を巻き込み様々なイベントの企画を行う。

Q1. 現在の小国町はどのような町？

平和な町。どこかと競争しているという感じもないし、そういう点でも住みやすい町だなと常日頃思います。小国町は時間を有意義に過ごし、ゆっくりと落ち着いた暮らしができる町だと感じます。

Q2. 将来世代のために10年後も町に残していきたいものは？

人とのつながり方です。小さい町の中にも集落があって細分化がされているので、その中でつながっていくのはすごく大事。私が経営しているお店の建物、実は15年くらい空き家でした。でも、お店をオープンした時に近所の年配の方が覗きに来て、ここは昔こうだったとか、こういうことに使われていたとか教えてくれて。大切にしないとけない文化や歴史がここにはあるんだと、お店ひとつで認識できました。そういうことは人伝いにしか伝わらないので、つながりは特に大事にしていきたいと思います。

Q3. 10年後のために町で変えるべきものは？

町民同士で気軽に集まれるようなイベントや場所がもう少し増えてもいいのかなと思います。ただ、町内で最近そういったイベントを企画する人が増えているので、良い傾向だなと感じています。私のお店についても利用用途をもっと増やし、人を雇ってもっと多くの人を集めることができるイベント等の開催ができる場所にしていきたいとも考えています。

Q4. 小国町の好きなところは？

特に「人と人との関係のあたたかさ」は好きな点です。小国町にずっと住んでいると当たり前になってしまっていて気づきにくいのですが、町外から来た人たちに小国町のことを褒めてもらうことがたくさんあって、実はこんな自然はどんな風に生かされているのかとか、もう単純に水がおいしいとか、そういう些細なことが実はすごく稀なことなんだとか。そういうことを認識すればするほど、やはり小国町は良いところだと実感します。

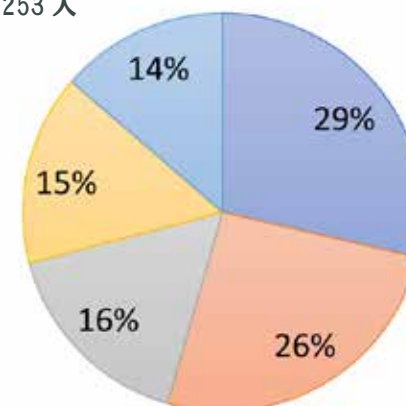
基本構想

コラム

保護者アンケート

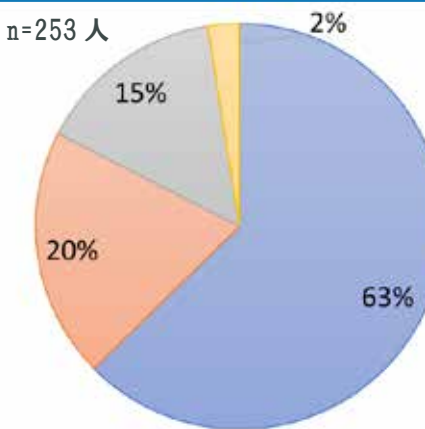
「SDGs をご存じですか」 「小国町は住みやすいですか」

n=253 人



- 知っている
- 知らない
- 内容を多少知っている
- アイコンを見たことがある
- 聞いたことがある

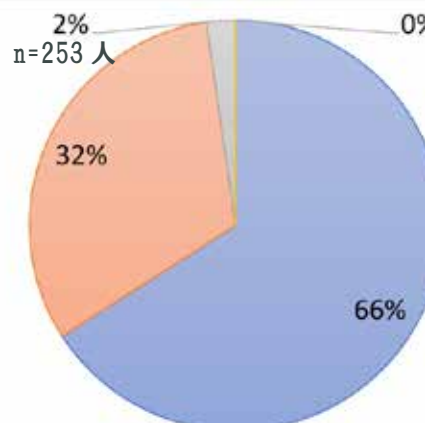
n=253 人



- まあまあ住みやすい
- 住みやすい
- どちらかという住みにくい
- 住みにくい

「小国町は好きですか」

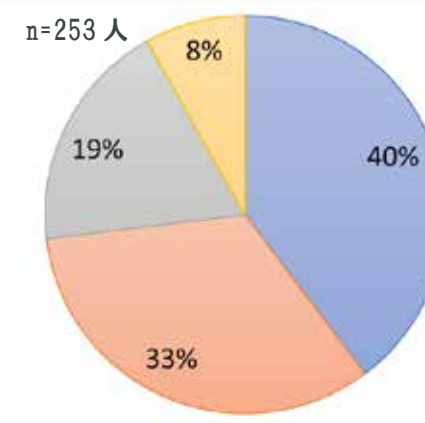
n=253 人



- まあまあ好き
- とても好き
- 好きではない
- どちらかといえば好き

「小国町に住み続けたいですか」

n=253 人



- どちらかといえば住み続けたい
- 住み続けたい
- どちらかといえば町外で暮らしたい
- 町外で暮らしたい

第6次小国町総合計画策定に向けた保護者向けアンケート調査より
(小国町立保育園・小学校・中学校に通う子どもを持つ保護者が対象)



環境省 九州地方環境事務所 課長
泉 勇気さん



環境省 九州地方環境事務所
伊藤 百合香さん

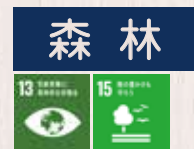


小国町災害派遣職員（荏岐市職員）
横山 雄次郎さん



小国町災害派遣職員（福岡市職員）
古閑 義範さん

SDGs 連携協定



SDGs に関する連携協定

▶ 肥後銀行・地方経済総合研究所

森林づくりパートナーシップ基本協定

▶ More trees・トライウッド・宮崎県諸塚村

ウッドスタート宣言

▶ アステリア・小国町森林組合・東京おもちゃ美術館

SDGs まちづくり包括連携協定

▶ アウテリアタイガー・（一財）学びやの里

J クレジット制度と寄付を活用した熊本県小国町の 森林保全に関する協定

▶ 和の会・明和不動産・明和不動産管理
小国町森林組合・ATGREEN

小国町地熱資源活用協議会に係る協定

▶ わいた会・小国町おこしエネルギー・テオー・
スズカ電工・ファーストブラザーズディベロップメント

旧西里小学校を活用した ESD 推進に関する連携協定

▶ ID22



大塚 美穂子さん



小国町ボランティア連絡協議会 会長
大塚 英博さん



小国町議会 産業常任委員会 委員長
熊谷 博行さん



小国町 商工会 事務局長
清高 泰広さん



大字上田協議会 会長
松岡 克明さん



小国小学校 PTA 会長
宮崎 敦司さん

コラム もっと！ 小国のまちの声



得意な分野も違えば、興味のあることや考え方も違う、多種多様な人々が小国町で暮らしています。アンケート調査だけでは拾いきれなかった町民の皆様の声を、より深く探るために、町民へのインタビュー・ヒアリングを実施しました。インタビュー・ヒアリングでは、年齢や性別、職業、活動内容などを踏まえ、多くの町民の皆様に個別に時間を頂き、活動されていることのお話、日々の生活で感じる小国町の課題、小国町の未来に期待すること、どんな総合計画であれば読みたいと思うかなど、まちへの想いをたくさんお聞きしました。

町民の皆様のご意見（町民アンケートの中の自由回答と、インタビュー・ヒアリングの内容）をSDGsの各ゴールごとにいくつかピックアップしましたので、ここでご紹介します。



1 貧困をなくそう

- ・町民一人ひとりが十分な衣食住の状態を保てるように、また保てていない町民を見つけた時にはすぐに助けてあげることができるようにならしてほしい。（40代女性）



2 飢餓をゼロに

- ・小国町で作られたおいしい食べ物を他の地域に自慢してもっとたくさん紹介・販売ができるようになるといいなと思う。（中学2年生女性）
- ・10年後、20年後、その先も、安全・安心で美味しい農作物が作り続けられるといいなと思う。（中学2年生女性）

基本構想



3 すべての人に健康と福祉を

- ・高齢者や障がい者が不自由なく生活できるまちは、誰にとっても幸せなまちだと思う。あとは、もっと高齢者福祉や障がい児福祉などに力を入れて欲しい。（40代男性）
- ・1つの保育園に園児が集中しすぎていると思う。先生方の目が行き届いているか心配。各園で園児数の調整を行うべきだと思う。（30代女性）



4 質の高い教育をみんなに

- ・若い人にとって、小国町がより住みやすい町になってほしい。学校の生徒数が増えることが理想。（70代男性）
- ・北里柴三郎博士が残した精神「継続的な学習」「学習と交流」をより大切にしたい教育を行ってほしい。（60代男性）



5 ジェンダー平等を実現しよう

- ・女性がもっといきいきと働きながら子育てができ、退職後も長生きできるまちになるといい。働く母親たちのためのまちになってほしい！（20代女性）



6 安全な水とトイレを世界中に

- ・手足が不自由な人が安全に利用できるトイレづくりをしてほしい。（中学2年生女性）



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

- ・再生可能なエネルギーを大切にするまちになるべき。（小学6年生男性）
- ・エネルギーなどの資源を有効に使えるエコなまちにしたい。（中学1年生男性）



8 働きがいも経済成長も

- ・町民が自分の就く仕事を選ぶとき、たくさんの業種の中から選べるまちになってほしい。（50代男性）



9 産業と技術革新の基盤をつくろう

- ・小国町の弱点でもある機械化・情報化を今後進め、町民たちの生活が豊かになってほしい。（中学3年生男性）
- ・林業や農業以外に中心的な産業が生まれると嬉しい。（中学3年生男性）



10 人や国の不平等をなくそう

- ・人権について誰もが学ぶことができ、一人ひとりがしっかりと人権を持てるまちが良い。（中学2年生男性）
- ・いじめのない誰もが相手を思いやれるまちにしたい。（小学5年生男性）

コラム もっと！ 小国のまちの声



11 住み続けられる まちづくりを

- ・もっと元気で明るいまちにしたい！
お祭りなどはもっとたくさん開催してほしい。
(中学3年生 女性)
- ・若い世帯が家を建てたいにもかかわらず、土地がなく諦めている方が多い気がする。
空き家や利用されていない土地を整備し活用できるようにすべき。(30代 女性)



13 気候変動に 具体的な対策を

- ・地球温暖化や環境汚染に対してすぐに対策を練り、実行に移すことができるまちであってほしい。(30代 男性)



15 陸の豊かさも 守ろう

- ・誰もが動物にも植物にも人にも優しくできるまちがいい。(小学6年生 男性)
- ・小国杉でもっと色々なものを作ってほしいと思う。(小学6年生 男性)



12 つくる責任 つかう責任

- ・誰もポイ捨てをしないことで、他地域の人が小国町に来てもしきれいと言われるようなまちにしたい。(中学3年生 男性)



14 海の豊かさ を守ろう

- ・町内でのレジ袋の使用を止めて、海洋プラスチック問題の解決につなげたい。
(中学2年生 男性)



16 平和と公正を すべての人に

- ・町中がいつも安全で事故・犯罪が起きにくいまちにしたい！(中学1年生 女性)
- ・災害の危険がない、災害に強いまちであってほしい。(50代 女性)



17 パートナースhipで 目標を達成しよう

- ・町民一人ひとりがアイデアを出し合える世代間交流の場を多く作り、楽しみながら支え合うまちづくりをしたい。
(20代 女性)
- ・町中があいさつであふれるようになるといい。
(中学3年生 女性)

基本構想



施策の大綱



ALL FOR THE NEXT

～すべては次世代のために～

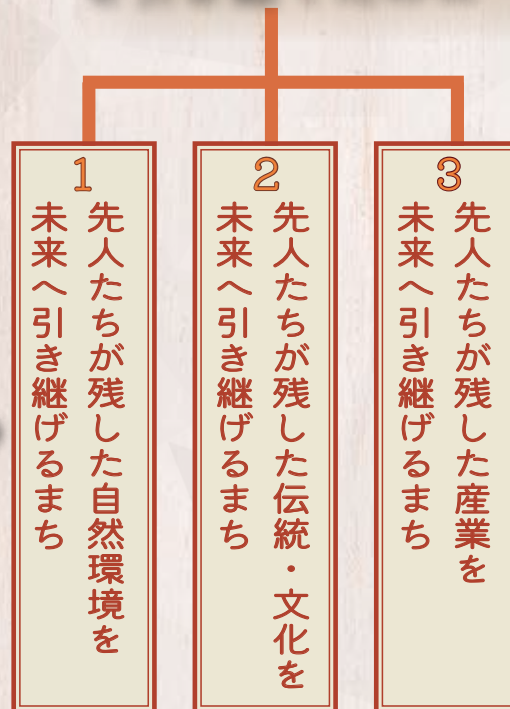
総合計画 4本の軸

政策方針（基本目標）

施策分野

1

先人たちの
経験・知恵・伝統
を引き継ぐために

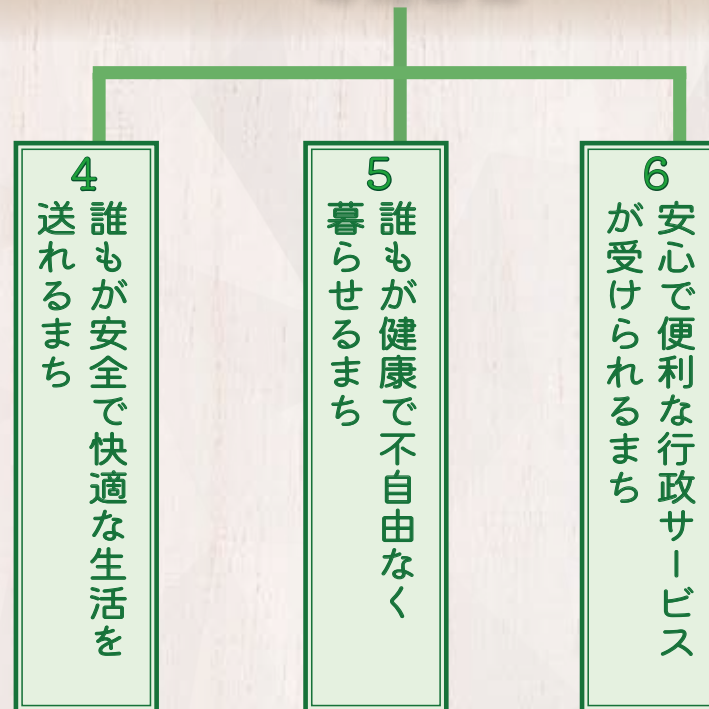


- ① 道路・河川
- ② 環境保全
- ③ エネルギー
- ④ 芸術・文化
- ⑤ スポーツ

- ⑥ 農林業
- ⑦ 商工業・サービス業

2

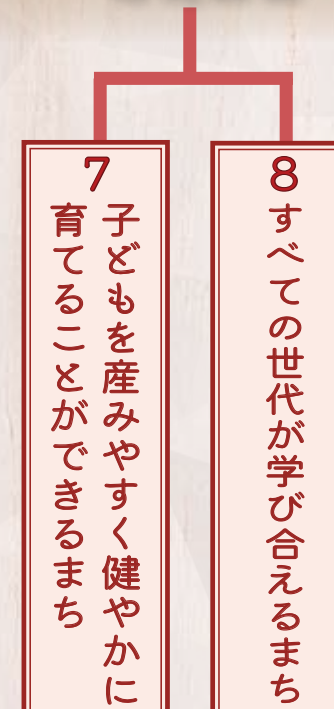
今を生きる
すべての町民
のために



- ⑧ 土地利用
- ⑨ 交通
- ⑩ 住宅・住環境
- ⑪ 上水道・生活排水処理
- ⑫ 安全・安心（防災）
- ⑬ 地域福祉
- ⑭ 高齢者福祉
- ⑮ 障がい者福祉
- ⑯ 健康づくり
- ⑰ 医療・保健
- ⑱ 高度情報化
- ⑲ 行財政運営

3

次世代を担う
子どもたち
のために

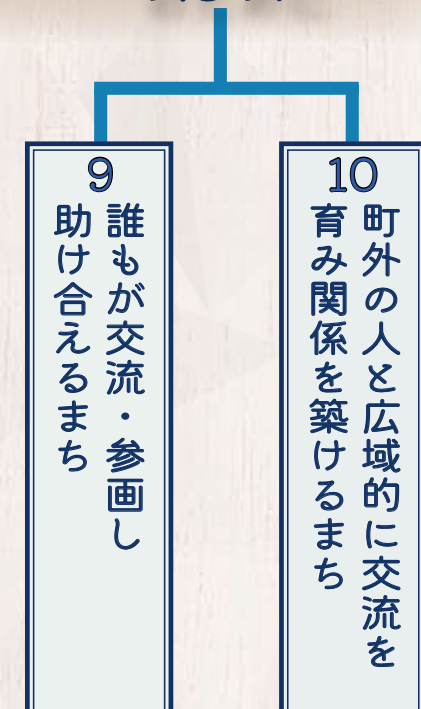


- ⑳ 子育て支援
- ㉑ 学校教育

- ㉒ 生涯教育

4

世代や地域、
関係者の垣根
を超えた交流
のために

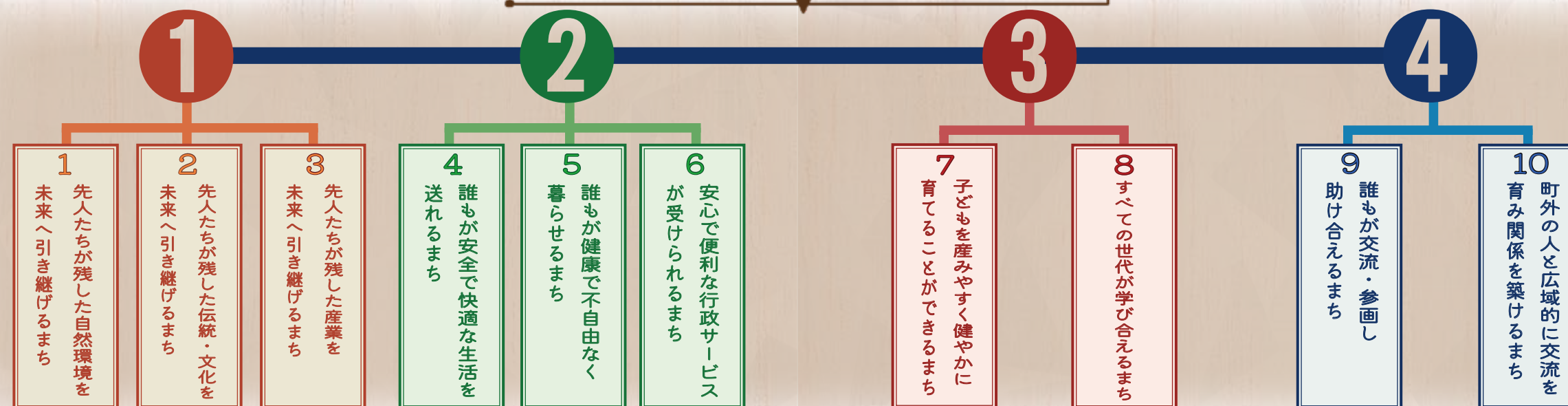


- ㉓ 人権・男女共同参画
- ㉔ 地域内協働
- ㉕ 住民自治

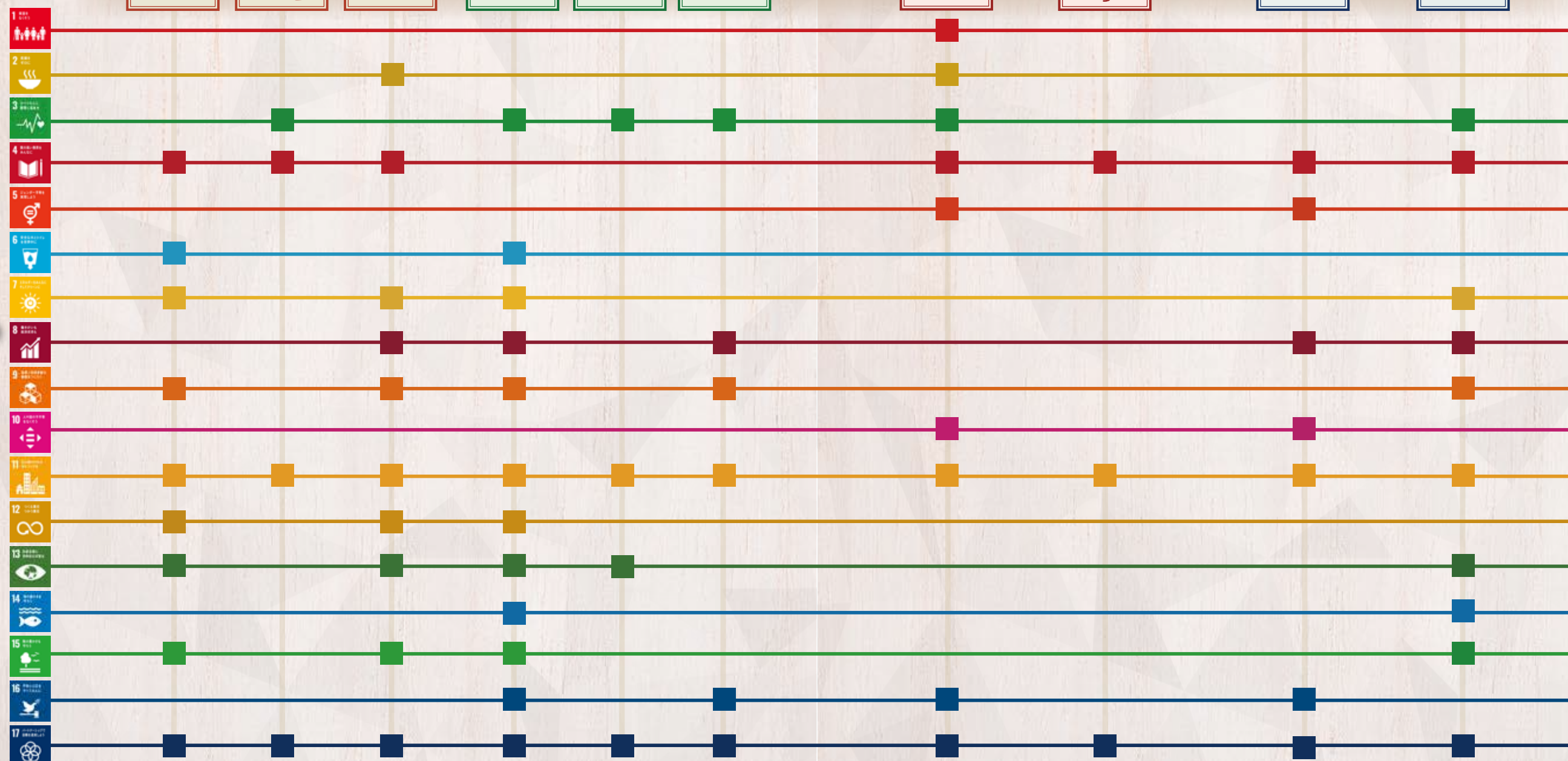
- ㉖ 観光・ツーリズム・交流
- ㉗ 広域連携・地域間協働

ALL FOR THE NEXT

～すべては次世代のために～



関連するSDGsのゴール





小国町基本構想

付録

OGUNI



小国町のこれまで といま

町章



【1980（昭和 55）年 6 月 10 日制定】

太陽の中に木の山をアレンジし、
小国の小の字が天に向かって伸び小国の発展を表現

小国という名のおこり

阿蘇神社の祭神となった健甕竜命が阿蘇山上から四方を拝し、三方に矢を放たれた。北に放たれた矢の落ちたところが御矢の原（現在の大字宮原）である。火の雄神、水の雄神の二神は、命の言いつけで巡視に来た。大河片澄という御矢の原の地元は二神を迎えて申し上げた。「臣を御手の中におかせ玉文ば、臣が国小なりとも青山四方を巡りて住吉の国なり。臣従はば皆服し奉るべく、誰一人背くものはありません」という伝説があり、この言葉の中の「国小なり」から小国の名がきたと言われています。

沿革

小国郷は、明治 3 年旧 25 ケ村が合併して 9 ケ村となり、更に明治 22 年町村の実施により北小国村（6 ケ村）と南小国村（3 ケ村）に分かれました。昭和にはいり、北小国村は、人口が 11,000 人余り県内で 10,000 人以上の市町村で村制を施行しているのはこの北小国村だけでした。また関西方面と産業・経済面で密接な関係にあり、昭和 10 年 4 月 1 日町制が施行され「北小国村」を「小国町」と改称しました。

町民憲章

さわやかなあいさつと ねぎらいのわをひろげよう うけついで美しい自然を守り 後世に伝えよう
郷土の歴史を学び 文化の香る町にしよう すこやかでいきいきとした青少年をはぐくもう
のびゆく社会をみつけ 創意あふれる町にしよう

町の木
スギ



町の花
エビネ



町の鳥
ヤマガラ



名誉町民

第 1 号 北里柴三郎（博士）



1853 年 1 月 29 日～1931 年 6 月 13 日

世界的な医学者北里柴三郎博士は、総庄屋の長男として北里村に誕生。明治 4（1871）年、熊本医学校に入学。オランダ人医師マンスフェルトに師事し、医学への道を志す。その後、東京医学校（現東京大学医学部）に進学。卒業後、内務省衛生局に勤務。国の留学生として結核菌の発見者であるドイツのローベルト・コッホに師事。ここで貴重な研究業績を次々に発表、とりわけ破傷風菌の純粋培養法の確立（1889 年）と血清療法の見（1890 年）は前人未到のもので、世界の医学界にその名をとどろかせた。

帰国後、福沢諭吉などの援助により伝染病研究所を設立し、わが国の近代医学に大きな足跡をとどめた。大正 3（1914）年、自力で北里研究所を創設。そのほかペスト菌の発見、慶應義塾大学医学部の創設、日本医師会の設立など、昭和 6（1931）年に死去するまで終生わが国の公衆衛生、医学教育、医療行政の発展に貢献した。

故郷である小国町には、1916 年に子どもたちのため私財を投じて図書館（北里文庫）を寄贈した。

2019 年 4 月、財務省から 2024 年に発行される新紙幣（千円札）の肖像画に北里柴三郎博士を採用することが発表された。

第 2 号 河津寅雄（町長）



1902 年 3 月 1 日～1979 年 2 月 2 日

地元で山林業や酒造業で大富豪だった河津寅雄は、1942 年に小国町の議員となった。そして、1948 年に同町長、1957 年に自由民主党熊本県連会長、1963 年には全国町村会長となった。200 もの会長職を務めていた時期もある。

1957 年からジャージー牛を利用した酪農を振興した。一時は、反対にもあったジャージー牛の導入だが、現在、ジャージー牛乳は町を代表する特産品となり、多くの加工物も作られ、人気を集めている。

また人件費や事務費などの経費削減に努めて、1963 年には小中学校の教科書無償配布と修学旅行費の全額町費負担を実現。1964 年には国民健康保険の世帯主・家族の 10 割給付の実施を実現した。

第 3 号 坂本善三（画伯）



1911 年 3 月 15 日～1987 年 10 月 14 日

坂本善三は、「グレーの画家」「東洋の寡黙」と称される抽象画家として知られている。故郷の風土や自然に根ざした坂本善三の作品は、日本独自の抽象であると世界でも高い評価を受けた。亡くなるまで熊本で制作を続け、熊本の美術界に大きな足跡を残した。

善三画伯のご遺族から多数の作品の寄贈を受け、坂本善三の芸術の功績を讃えた坂本善三美術館が 1995（平成 7 年）10 月に開館。小国の自然から生まれた坂本善三芸術は「小国の生活の中にあるのが最も似合う」というコンセプトから、美術館の建物には、明治 5 年に小国町大字下城に建てられた古民家を移築。加えて、小国特有の置き屋根形式の蔵を模した展示棟と収蔵棟を新築し、日本でも唯一の全館畳敷きの美術館が誕生した。

小国町のこれまで といま

History & Statistics of OGUNI

小国町の歩み

年 度		事 項
1935	昭和 10 年	北小国村から小国町へ
1953	昭和 28 年	町立病院が完成 大水害により多くの被害が発生 小国町内の中学校 4 校が 1 校に統合する
1954	昭和 29 年	国鉄宮原線が肥後小国駅まで開通
1957	昭和 32 年	小国地方はじめてのジャージー種（牛）が導入される 小国町立病院に南小国村が加入し、小国公立病院と改称
1967	昭和 42 年	小国学園開設
1973	昭和 48 年	山村開発センター完成（農協、森林組合併設）
1977	昭和 52 年	小国中学校新築
1979	昭和 54 年	小国高等学校校舎新築
1980	昭和 55 年	阿蘇広域消防組合北部分署新築開設
1981	昭和 56 年	小国警察署庁舎移転新築
1982	昭和 57 年	小国町文化祭が行われる
1984	昭和 59 年	林間広場オープン 国鉄宮原線廃止
1985	昭和 60 年	小国公立病院改築 町制施行 50 周年記念スギトピアおぐにまつり
1986	昭和 61 年	おぐにみらい 21－悠木の里づくりシナリオの発刊
1987	昭和 62 年	ジャージー導入 30 周年 北里柴三郎記念館整備完了 ゆうステーションオープン 林業総合センター落成
1988	昭和 63 年	物産館びらみっと竣工 小国ドームオープン 木魂館オープン
1990	平成 2 年	商工会館落成 第 1 回おぐに古楽音楽祭
1991	平成 3 年	杖立トンネル貫通 小国ニューシナリオ発刊 9.27 台風 19 号 土地利用計画チーム結成
1992	平成 4 年	牛乳処理施設完成 スギトピアばされ祭開催
1993	平成 5 年	土地利用計画チームからコミュニティプラン推進チームと名称変更 6.18 豪雨災害 第 1 回九州社会人ホッケー選手権小国大会
1994	平成 6 年	小国中学校ホッケー部・小国高校ホッケー部発足

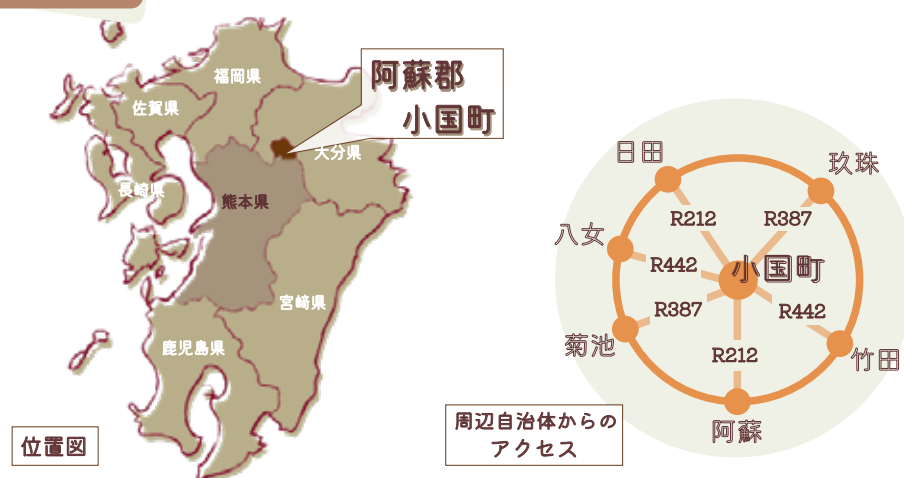
年 度		事 項
1994	平成 6 年	農村総合整備モデル事業完了 JA 阿蘇小国郷事務所完成
1995	平成 7 年	坂本善三美術館完成 少林武術公演開催 隣保館・児童館完成 第 1 回 阿蘇小国郷ツーデーマーチ開催 滝美国グリーンセンター落成
1996	平成 8 年	杖立 P ホール完成
1997	平成 9 年	九州ツーリズム大学開講
1998	平成 10 年	中国登封市と友好締結 エフエムおぐに開局 マウンテンバイクジャパンシリーズ開催 役場庁舎移転
1999	平成 11 年	ファームロード WAITA 開通 国道 442 号上田バイパス完成 おぐに老人保護施設落成 桜尾山荘オープン 熊本国体ホッケー競技大会開催
2001	平成 13 年	小国 21 世紀シナリオ策定
2002	平成 14 年	ヨーグルト工場落成 日本少林武術学校開校 團伊玖磨コンサート 全日本中学生ホッケー大会優勝（男子）
2003	平成 15 年	小国郷二町合併任意協議会発足 阿弥陀杉モニュメント完成 鍋ヶ滝で CM 撮影
2004	平成 16 年	悠工房完成 小国郷合併協議会解散
2005	平成 17 年	7.10 集中豪雨災害 小国高校男子ホッケー部インターハイ初制覇 うるるん体験教育スタート
2006	平成 18 年	小国町ネットワーク基金開始
2007	平成 19 年	一目山風力発電所竣工
2008	平成 20 年	国道 387 号 バイパス全線開通
2009	平成 21 年	小国小学校開校（小学校統廃合） スクールバス運行開始 小国町シルバー人材センター設立
2010	平成 22 年	グリーンロード開通（西周りバイパス） 光ファイバー事業着手

基本構想 付録

年 度		事 項
2011	平成 23 年	坂本善三生誕 100 年記念として県内すべての公立美術館で記念展開催 小国町映像センター運用開始 小国町立小国学園を小国町社会福祉協議会へ事業譲渡
2012	平成 24 年	小国中（9 年生）子ども協議会を初開催
2013	平成 25 年	薬味野菜の里 小国オープン 小国町ウッドスタート宣言
2014	平成 26 年	環境モデル都市に選定（H25 年度選定） 世界ジオパークに阿蘇地域が選定 杖立温泉みちくさ市始まる
2015	平成 27 年	和の会・明和不動産・フォレストック協会・小国町森林組合と「フォレストック認定制度を活用した熊本県小国町の森林保全に関する協定」を締結 鍋ヶ滝公園オープン 小国町養護老人ホーム木野里荘を小国町社会福祉協議会へ事業譲渡 環境保全のための管内防犯灯の LED 化を促進 インフォテリア（現アステリア）・小国町森林組合・東京おもちゃ美術館と「ウッドスタート宣言」
2016	平成 28 年	マイナンバーカード交付開始 地熱資源の適正活用に関する条例施行 平成 28 年熊本地震（小国町震度 5 強） 選挙権年齢が 18 歳に引き下げ後初の選挙（衆議院） 殿町大規模火災 山村開発センター解体工事着工
2017	平成 29 年	公共施設等総合管理計画策定 ケヤキ広場遊具施設オープン （仮称）庁舎コミュニティ棟建築工事着工 マイナンバー制度情報連携開始
2018	平成 30 年	小国町総合防災マップ改定 「平成 28 年熊本地震」復興まちづくり計画策定 SDGs 未来都市に選定 自治体情報クラウド化開始
2019	平成 31 年	おぐに町民センター開館 第 1 回おぐにの環境・暮らし・お財布（SDGs）のことを考えるフォーラム開催 「小国町 SDGs 未来都市行動計画」策定 財務省が 2024 年発行の新紙幣（千円札）の肖像画に北里柴三郎博士を採用することを発表
2020	令和元年 令和 2 年	北里柴三郎博士紙幣採用記念 大村智北里大学特別栄誉教授講演会 アウテリアタイガー・（一財）学びやの里と「SDGs まちづくり包括連携協定」締結 「第 2 期小国町まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定 小国町気候非常事態宣言 庁舎耐震化工事竣工 杖立防災センター建築工事竣工 公共施設等総合管理計画個別施設計画策定 肥後銀行・地方経済総合研究所と「SDGs 推進に関する連携協定」締結 ㈱ ID22 と「旧西里小学校を活用した ESD 推進に関する連携協定」締結 わいた会、小国町おこしエネルギー、テオー、スズカ電工、ファーストブラザーズ ディベロップメントと「小国町地熱資源活用協議会に係る協定」締結

小国町のこれまでといま

位置と自然



位置図

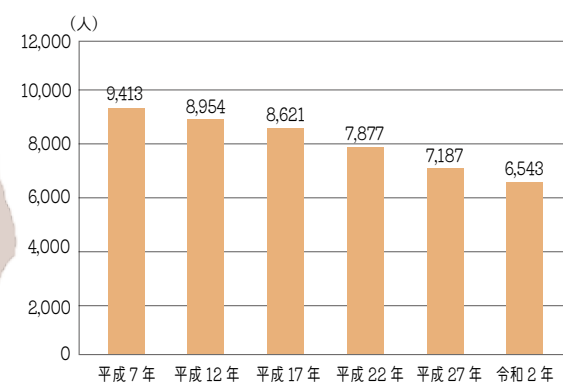
周辺自治体からのアクセス

九州のほぼ中央、熊本県の最北端、阿蘇外輪山の外側にあり筑後川の上流に位置しています。東西北部を大分県、南部を南小国町と隣接し、東西18km、南北11km、総面積136.72km²。その総面積の78%は森林が占めた農山村地域です。気温は九州山脈の屋根に位置しているため変化がはげしく、夏は涼しく冬は厳しい高冷地帯（平均気温13℃）であり、雨も多く年間降水量は2,300mm、多雨多湿で森林の育成に適しています。『小国富士』と呼ばれる涌蓋山が海拔1,499mで小国町の中で一番高く、逆に一番低いのは海拔320mの杖立です。

人口構造

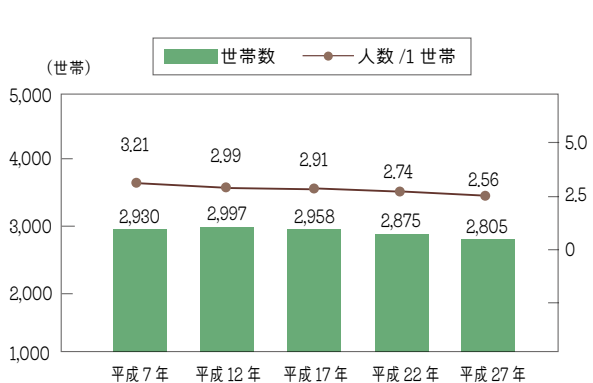
小国町の人口は、平成7年の9,413人から令和2年の6,543人まで減少しています。世帯数及び1世帯当たりの人数も減少傾向にありますが、少子高齢化による影響を緩和し、交流人口を増やすことを模索していきます。

■人口の推移



出所：国勢調査及び推計人口調査（令和2年のみ）

■世帯数・世帯規模の推移

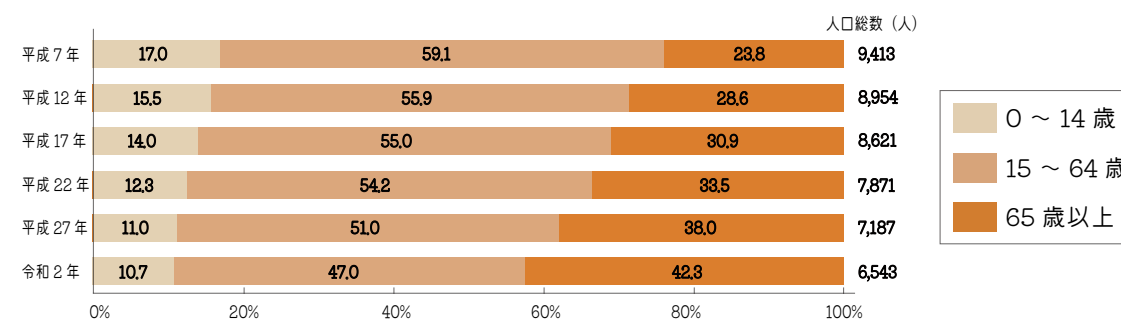


出所：国勢調査

基本構想 付録

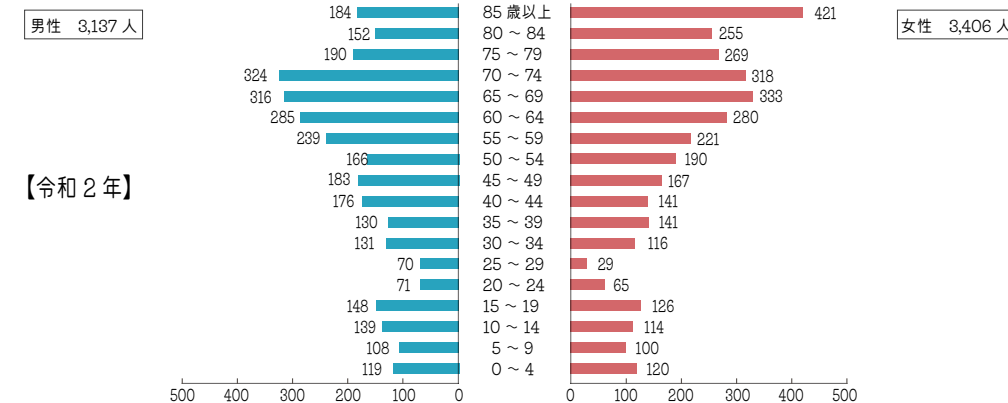
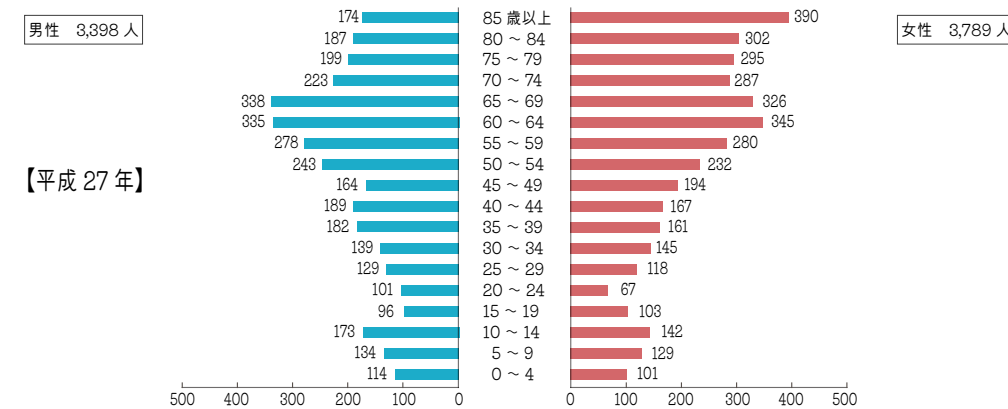
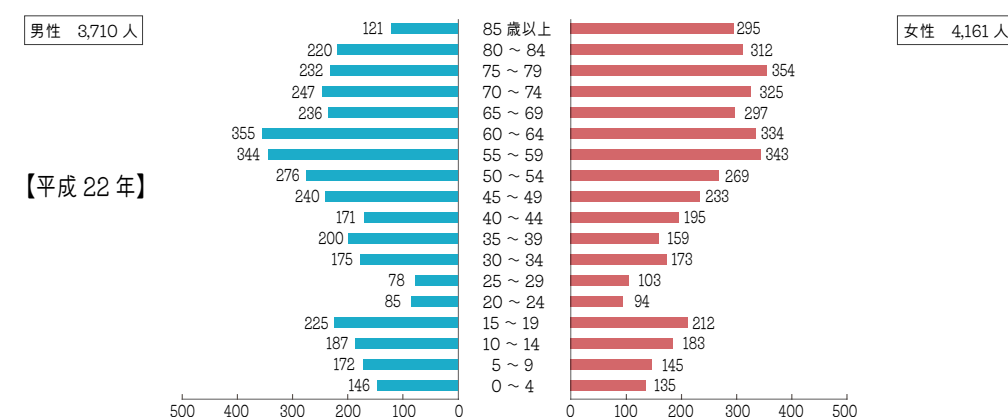
■年齢別人口構成比の推移

平成7年から令和2年にかけて、65歳以上の町民は増加傾向にあります。特に、平成27年から令和2年における65歳以上の人口は顕著に増加しており、少子高齢化に伴う人口構造の変化が見られます。



出所：国勢調査及び推計人口調査（令和2年のみ）

■国勢調査による5歳区分年齢・性別人口構成



出所：国勢調査及び推計人口調査（令和2年のみ）

小国町のこれまで といま

人口構造

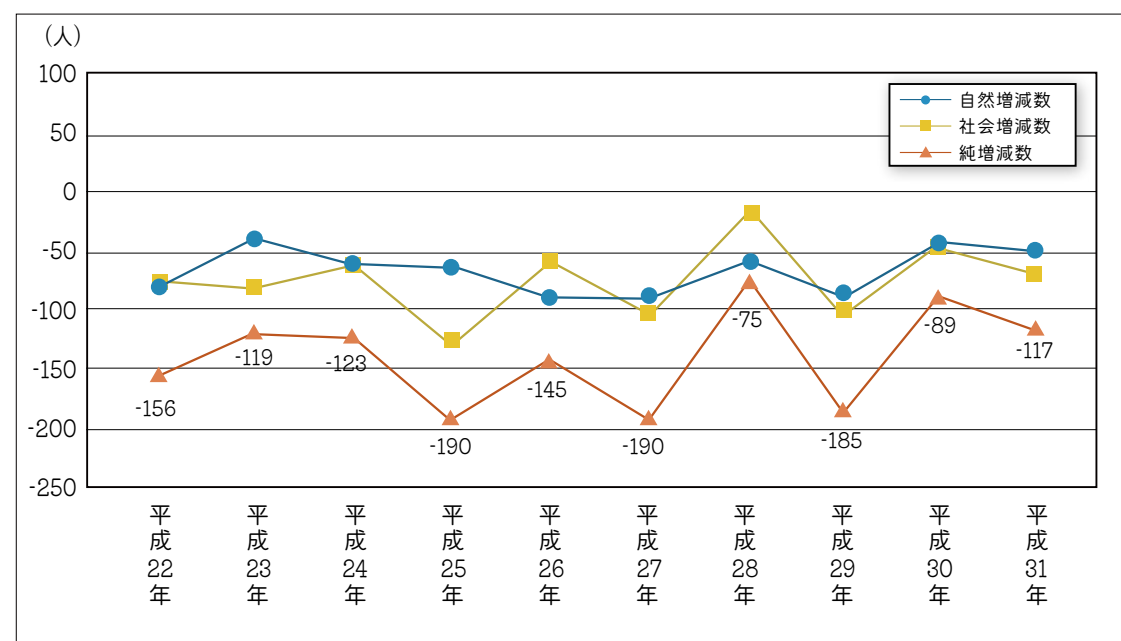
■自然増減・社会増減

平成22年度から31年度の自然増減数の平均は△65となっており、近年はその値をさらに下回っています。同期間における社会増減数の平均は△74であり、自然動態と同様に近年はその値を下回っています。「誰もが健康で安全な生活を送れるまち」、「子どもを産みやすく健やかに育てることができるまち」、「町外の人と広域的に交流を育み関係を築けるまち」の実現を通して地域の活性化に努めます。

年度	自然動態			社会動態			純増減数
	出生	死亡	増減数	転入	転出	増減数	
平成22年度	39	119	△80	263	339	△76	△156
平成23年度	57	96	△39	270	350	△80	△119
平成24年度	53	114	△61	387	449	△62	△123
平成25年度	41	104	△63	383	510	△127	△190
平成26年度	41	129	△88	533	590	△57	△145
平成27年度	38	125	△87	480	583	△103	△190
平成28年度	54	112	△58	511	528	△17	△75
平成29年度	42	126	△84	399	500	△101	△185
平成30年度	57	100	△43	436	482	△46	△89
平成31年度	47	97	△50	652	719	△67	△117
平均	47	112	△65	431	505	△74	△139

出所：住民基本台帳人口要覧

■人口動態



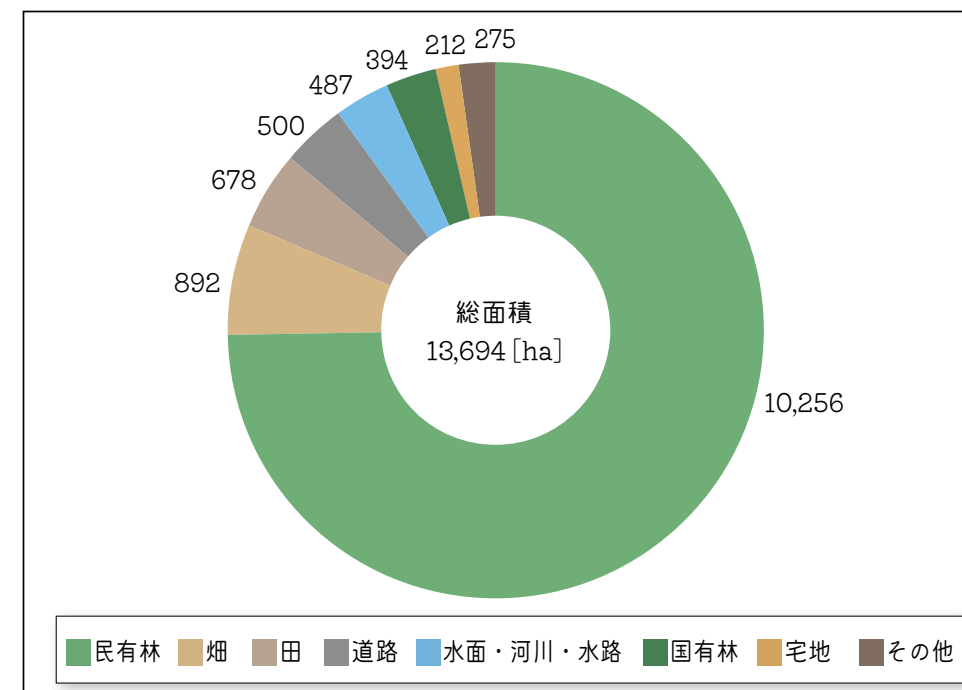
面積

■利用区別土地面積

本町の面積の約75%は民有林であり、次いで畑、田の順に面積の割合が多く、自然豊かな町となっている。

(単位：ha)

年	総面積	田	畑	採草放牧	国有林	民有林	原野	水面 河川 水路	道路	宅地	その他
平成31年度	13,694	678	892	-	394	10,256	0	487	500	212	275

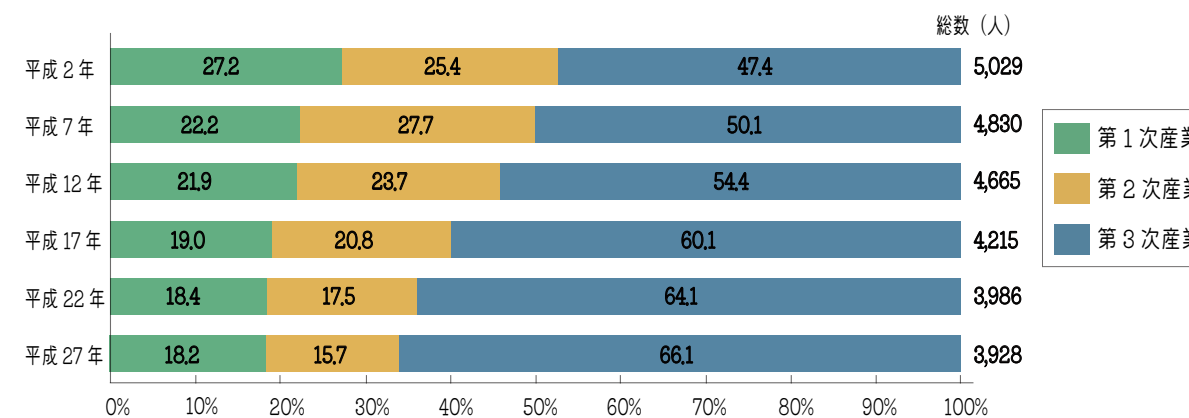


出所：市町村別土地面積（熊本県統計年鑑）

産業

■産業別就業者構成比の推移

本町では、年を追うごとに第3次産業の就業者の割合が増え、第1次産業、第2次産業の就業者の割合は相対的に減少している。



出所：国勢調査

注) 総数には分類不能を含む

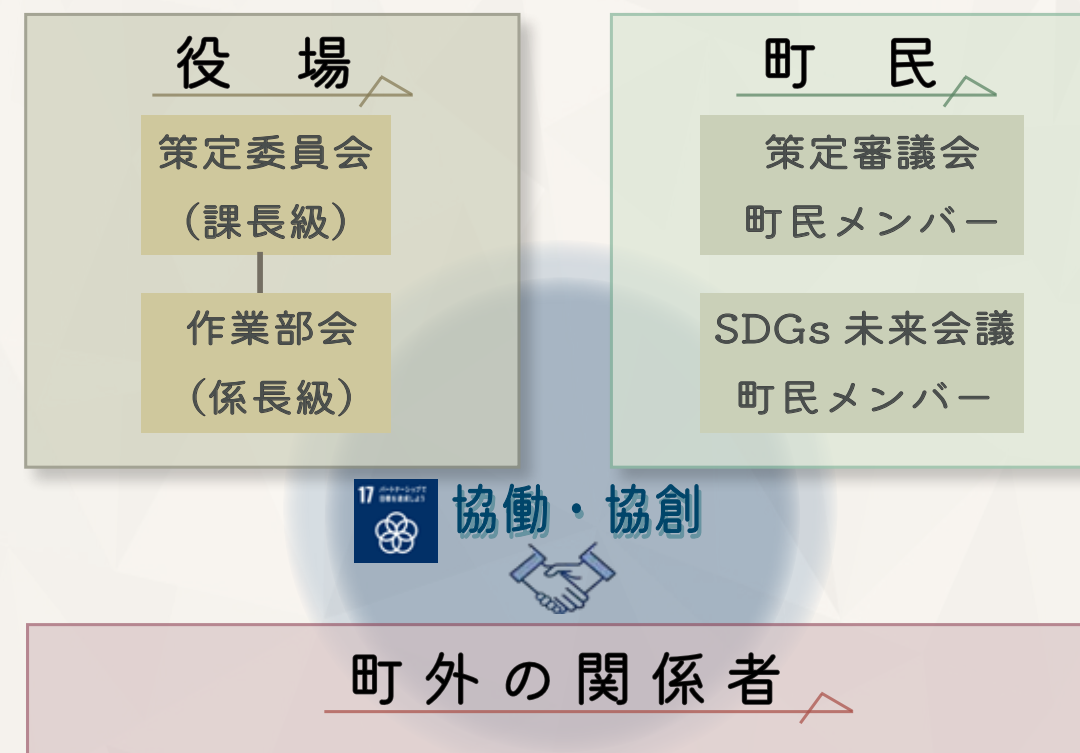
動き出した小国町



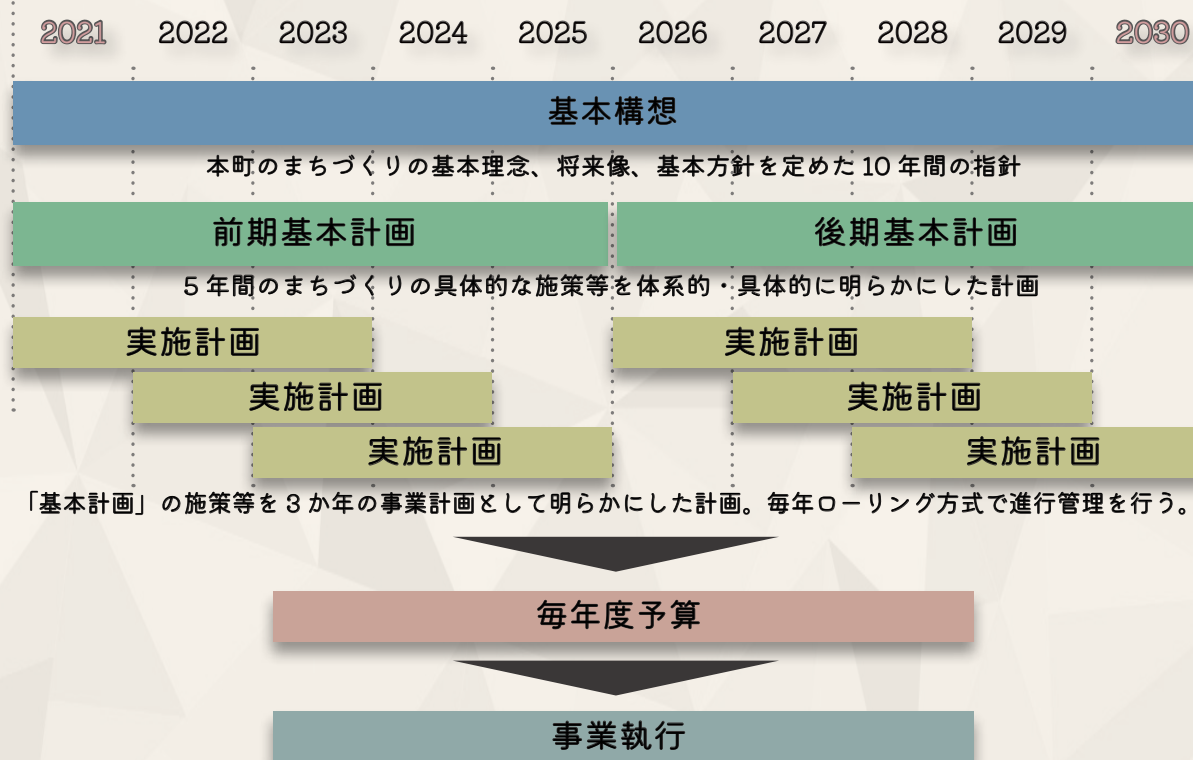
1. 総合計画の策定体制と構成

SDGs の理念である「パートナーシップで目標を達成しよう」に基づき、本総合計画の策定に当たっては、役場・町民及び町外の関係者が協働・協創する体制で策定を進めてきました。

● 総合計画の策定体制



● 総合計画の構成図



2. 総合計画策定 *STORY*

本総合計画は、小国町民の皆様及び町外の皆様のご協力のもとで策定を進めました。その計画策定の STORY をご紹介します。

6月



・町長を交えたディスカッション（第1回）



7月



次期「総合計画」策定に向けて、意見を募集します
小国町では、令和3年度から令和12年度までの町の主要計画である「第6次小国町総合計画」の策定に向けて、町民のみなさまから10年後の小国町の姿について、ご意見や思いを募集します。
こんな町になってほしいな、こんなことができる町になってほしいななど、皆さんが書く「夢の小国町の未来の姿（ビジョン）」をお寄せください。字数は、問いません。

「あなたが思い描く10年後の小国町の姿」の募集

8月



・町長を交えたディスカッション（第2回）
・小国小中学校の校長先生を交えたディスカッション



9月



・町長を交えたディスカッション（第3回）
・SDGs 未来会議メンバーへのインタビュー



10月



・小国町民へのインタビュー
・町の未来を担う小国の小中学生を対象としたSDGs授業の実施
・小中学生を対象としたアンケート調査の実施
・町立保育園・小学校・中学校に通う子どもを持つ保護者を対象としたアンケート調査の実施



11月

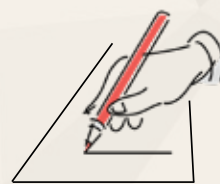


・第5次小国町総合計画策定担当者へのヒアリング
・町長を交えたディスカッション（第4回）

12月



・小国町総合計画策定審議会委員への委嘱状の交付
・小国町総合計画策定審議会開催（第1回）



1月

・第1回小国町策定審議会での意見を踏まえた総合計画のブラッシュアップ



2月



・総合計画策定審議会開催（第2回）
・審議会委員長から町長へ答申書提出

3月



・パブリックコメントの募集
・第6次小国町総合計画の策定完了





小国町総合計画策定審議会 委員名簿

(順不同、敬称略)

主な区分	団体・所属名※	肩書※	委員名
行政	小国町議会 総務文教福祉常任委員会	委員長	久野 達也
	小国町議会 産業常任委員会	委員長	熊谷 博行
	小国町議会 人権啓発・男女共同参画特別委員会	委員長	穴見 まち子
教育・文化	小国町教育委員会	教育長	麻生 廣文
	熊本県立小国高等学校	校長	打越 博臣
	小国町内校長会	代表 (小国中学校長)	家興 修一
	小国高等学校育志会	副会長	椋野 正信
	小国小学校 PTA	会長	宮崎 敦司
	小国中学校 PTA	会長	井上 健作
	小国町体育協会	会長	高野 伸征
産業・経済	小国町森林組合	常務理事	北里 栄敏
	小国町商工会	会長	河津 悦雄
	ASO おぐに観光協会	会長	
	(株) ゆうステーションカンパニー	代表取締役 専務	高橋 正之助
	阿蘇農業協同組合 小国郷中央支所	支所長	河津 浩
	一般財団法人学びやの里	事務局長	江藤 理一郎
	わいた温泉組合	組合長	石松 裕治
	杖立温泉観光旅館協同組合	理事長	河津 順也
	農業振興地域整備促進協議会	委員	佐藤 仲子
	地熱資源活用連絡会	代表	後藤 幸夫
福祉・コミュニティ	小国町消防団	団長	松野 英一
	大字宮原協議会	会長	河津 徹志
	大字上田協議会	会長	松岡 克明
	大字北里協議会	会長	北里 勝義
	大字西里協議会	会長	穴見 正利
	大字下城協議会	会長	本田 康幸
	大字黒淵協議会	会長	横田 康成
	小国公立病院	院長	坂本 英世
	小国町社会福祉協議会	会長	奴留湯 哲宣
	老人クラブ連合会	会長	後藤 且也
	小国町婦人会	会長	木田 増美
	小国町男女共同参画社会推進懇話会	委員	梅田 聖子
	小国町民生委員児童委員協議会	会長	瓜生田 孝和
	小国町ボランティア連絡協議会	会長	大塚 英博
	小国町隣保館・児童館運営審議会	委員	北里 りえ子

※肩書は令和2年度現在です。

第6次小国町総合計画



基本構想

2021 ➡ 2030

編集・発行：令和3年3月 熊本県小国町 政策課

〒869-2592 熊本県阿蘇郡小国町宮原1567-1

TEL. 0967-46-2111 (代)

FAX. 0967-46-2368

URL. <https://www.town.kumamoto-oguni.lg.jp/>

印刷：株式会社 穴井印刷

協力：法政大学デザイン工学部建築学科 川久保俊研究室